

高松市競輪事業検討委員会 報告書



平成30年8月
高松市競輪事業検討委員会

はじめに

高松市の競輪事業は、昭和25年6月に、全国45番目の競輪場として設置許可され、今年で開設68周年を迎える。この間、公営競技の本旨に則り、公正なレースの実施と事故防止に努めながら競輪事業運営を継続し、現在に至っている。

設備面では、昭和47年に競走路を333.3mから400mに拡張、昭和57年には中央スタンドを新築するなど、設備の充実を図ってきた。車券発売方法では、平成3年4月から電話投票を開始したほか、13年には全国に先駆けた新賭式の発売を開始するとともに、場外発売日数を増やすなど、競輪場利用者のニーズに積極的に対応してきた（※4・5頁参照）。

自転車競技法に則って地方公共団体が実施する競輪事業の主たる目的は、収益として確保した売上げの一部を社会還元することである。平成29年度までの67年間で、累計の車券総売上高は8,478億円に達し、高松市の一般会計への繰出金の累計は407億円余にも上る。

しかしながら、近年、レジャーの多様化や、経済環境の変化などの影響等で、長期的に売上げが減少しつつある。最盛期には年間22億円あった一般会計への繰出しも、近年ではバンク改修等の影響もあり、平成22年度から23年度はゼロになるなど、厳しい状況となっている（※7頁参照）。このため、特別競輪などのレースの誘致や、積極的な場外車券発売に加え、他場と連携したミッドナイト競輪の開催、投票所の集約や自動車券発売機の導入などの経費削減策を行うことで、経営の改善を図ってきた。

一方、競輪場のスタンドは、昭和45年から57年に建てられたもので、老朽化が進んでおり、耐震性の課題が顕在化している。特に、西スタンドは震度6強以上の揺れに対して倒壊又は崩壊の危険性が高いとの指摘もなされたことから、現在は立ち入り制限などにより応急対応している（※4頁参照）。早期に耐震対策を行う必要があるのは明らかだが、これらスタンド施設の改修には、試算ではあるが、全体で数億円から10億円を超える程度の経費を要することも判明した（※13頁参照）。競輪事業の経営状況は、直近では一定の繰出しができていたものの、利用者の高齢化などには歯止めがかかっておらず、将来にわたって改修の経費を確保できるか、また、多額の費用をかけてまで改修する意義があるものかも見通せない状況にあった。

このような状況を踏まえ、平成29年8月に「高松市競輪事業検討委員会」が設置され、存廃を含めた高松市競輪事業の今後の在り方について議論を行うこととなった（※1頁参照）。この報告書は、高松市から委嘱された7人の委員のメンバーが、高松競輪場の経営状況や取り巻く様々な状況などを勘案しながら、今後の本市競輪事業の在り方について、ゼロベースから鋭意議論してきた結果を取りまとめたものである。議論の過程はなるべく見えるような形で進めてきた所存である。

今後、高松市においては、競輪事業の在り方に関する意思決定を行う際には、本報告書の主旨を尊重していただくことを望むものである。

平成30年8月

高松市競輪事業検討委員会

目次

1	検討委員会の設置	
(1)	経緯	1
(2)	開催日程・検討内容	1
(3)	現地視察・改修のポイント	2
2	高松市競輪事業の状況	
(1)	沿革	4
(2)	施設概要	5
(3)	高松競輪の車券売上高の推移	6
(4)	高松競輪の収支及び繰出金の推移	7
(5)	高松競輪の1日平均場内売上高・1日1人当たり購買額	7
(6)	高松競輪の入場者数の推移	8
(7)	来場者の年齢構成	8
(8)	参考（競輪関係団体・機関）	9
(9)	参考（全国公営競技の状況）	10
3	検討手法（選択肢（代替案）と評価基準）	
(1)	選択肢（代替案）	12
(2)	評価基準	12
4	検討内容	
(1)	評価基準に基づく施設の代替案	13
(2)	収支見通し	15
(3)	施設改修の実現性	17
(4)	ランニングコスト比較	23
(5)	キャッシュフロー比較	23
5	市民アンケート調査結果	25
6	委員からの意見	
(1)	競輪事業について	28
(2)	施設について	29
(3)	収支見通しについて	31
(4)	ギャンブル等依存症について	31
(5)	その他	32
(6)	参考	32

7 検討委員会からの提言	
(1) 存続の場合	33
(2) 廃止の場合	35
8 まとめ	36

参考資料

《資料1》高松市競輪事業検討委員会委員名簿	37
《資料2》高松市競輪事業検討委員会設置要綱	38
《資料3》ギャンブル依存症の調査結果まとめ	40
《資料4》検討の経過	42

※会議から抜粋した資料の一部で、検討委員会の協議により追加・修正している。

1 検討委員会の設置

(1) 経緯

平成25年11月25日に施行された「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正により、昭和56年以前に建築された、不特定多数の人が利用する大規模な建築物（要緊急安全確認大規模建築物）について、耐震診断結果を平成27年12月31日までに所管行政庁に報告することが義務付けられ、所管行政庁は、その結果を公表しなければならないこととなった。

これに伴い、平成29年1月31日に、市内における要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断結果が公表され、高松競輪場関係では、報告義務のある中央スタンドについては、震度6強以上の揺れに対し、倒壊又は崩壊の危険性があるほか、西スタンドについては、倒壊又は崩壊の危険性が高いと示された。

これらスタンド施設の改修には、全体で数億円から10億円を超える程度の経費を要すると試算しているが（※13頁参照）、競輪事業は、直近では一定の繰り出しができているものの、ファンの高齢化などには歯止めがかかっておらず、将来にわたっての見通しは不透明な状況にあり、このような中、施設改修に多額の投資を行うことは、十分な検討が必要であることから、平成29年度において、有識者等による検討委員会を立ち上げ、様々な角度から、高松市競輪事業の将来像についての議論を行い、施設改修についても、この検討の中で早期に方針を定めることとの意思決定がなされた。

これを受け、平成29年8月に検討委員会が設置され、高松市競輪事業の今後の在り方について、存廃を含めて様々な角度から議論を行い、30年夏頃を目途に、その結果を取りまとめることとなった。

(2) 開催日程・検討内容

回次	年月日	主な内容
第1回	平成29年 8月30日(水)	高松市競輪事業の現状・収支状況など
第2回	平成29年10月25日(水)	施設改修の方向性・実地見学調査など
第3回	平成29年12月22日(金)	検討手法（選択肢と評価の基準設定）など
第4回	平成30年 2月28日(水)	収支見直し・市民アンケート調査結果など
第5回	平成30年 4月26日(木)	評価基準に基づく施設の代替案など
第6回	平成30年 6月28日(木)	評価基準に基づく施設の代替案・傍聴者からの意見聴取
第7回	平成30年 7月31日(火)	報告書（案）取りまとめ
第8回	平成30年 8月29日(水)	報告書（案）取りまとめ・市長報告

(3) 現地視察・改修のポイント

ア 現地視察

第2回会議において、現地視察を行い、競輪場施設の現状及び施設改修の必要性等の把握に努めた。

《選手宿舎》



《プレスセンター》



《管理棟》



《管理棟1階選手控室》



《管理棟2階》



《管理棟、北スタンド（検車場）、西スタンド》



《検車場》



《西スタンド》



《中央スタンド》



《中央スタンド1階第1投票所》



《前売投票所》



《前売投票所》



イ 改修のポイント

競輪事業では、施設の老朽化と耐震性の欠如が大きな課題となっている。施設を視察したところ、老朽化はかなり進んでおり、また、西スタンド及び北スタンドについては、震度6強以上の揺れに対し、倒壊又は崩壊の危険性が高いとされていることから、簡易な立ち入り制限がなされている。来場者の安全面での不安も懸念されることから、早期に補強若しくは撤去などの対策を講じる必要があるとの認識に至った。

《中央スタンド》

《西スタンド》

《北スタンド》



施設名	竣工年	築年数	建築面積	延面積	構造	耐震診断
中央スタンド	S57	36年	3,867㎡	8,491㎡	鉄筋コンクリート一部鉄骨造 地上4階・地下1階建	▲倒壊又は崩壊の危険性がある
西スタンド	S47	46年	2,307㎡	6,762㎡	鉄筋コンクリート一部鉄骨造 (屋根)3階建	×倒壊又は崩壊の危険性が高い
北スタンド	S45	48年	1,229㎡	3,663㎡	鉄筋コンクリート一部鉄骨造 (屋根)4階建	×倒壊又は崩壊の危険性が高い

2 高松市競輪事業の状況

(1) 沿革

- 昭和25年 6月 全国第45番目の競輪場として設置許可
- 45年12月 北スタンド新設
- 47年11月 333.3mの競走路を400mに拡張、西スタンド新設
- 48年10月 第16回オールスター競輪開催
- 57年 4月 中央スタンド完成
- 9月 第25回オールスター競輪開催
- 平成 3年 4月 電話投票開始
- 9月 第34回オールスター競輪開催
- 11年11月 自動発券機導入(前売投票所)
女性・キッズ休憩コーナー設置
- 12月 選手宿舍竣工
- 12年 1月 第12回共同通信社杯競輪開催、イベント広場整備

- 1 1月 遊戯施設（チータカ広場）整備
- 1 3年1 2月 3連単・ワイドなどの新賭式導入
- 1 4年 2月 第1回東西王座戦（西王座戦）開催
- 1 6年1 0月 第1 7回共同通信社杯競輪開催
- 2 1年 2月 第8回東西王座戦開催
- 2 2年 1月 走路改修工事（～2 2年7月）
- 2 6年 2月 第2 9回全日本選抜競輪開催
- 2 7年1 1月 ミッドナイト競輪開催（高知競輪場借上げ）
- 2 9年 3月 第1回ウィナーズカップ開催

(2) 施設概要



ア 競輪場

- (ア) 位置 高松市福岡町一丁目4番46号
- (イ) 敷地面積 84,348.15㎡（賃貸分を含む）
 - ・土地価格：約48億円
 - ・年間固定資産税額：約4,700万円（土地のみ）
- (ウ) 競走路 1周400m
- (エ) 収容人員 14,122人

中央スタンド1F	3,003人	西スタンド	8,175人
中央スタンド2F	814人	北スタンド	2,130人
- (オ) 車券発売・払戻関係
投票所6か所（自動発券機58台、自動払戻機14台）

(カ) ファンサービス関係

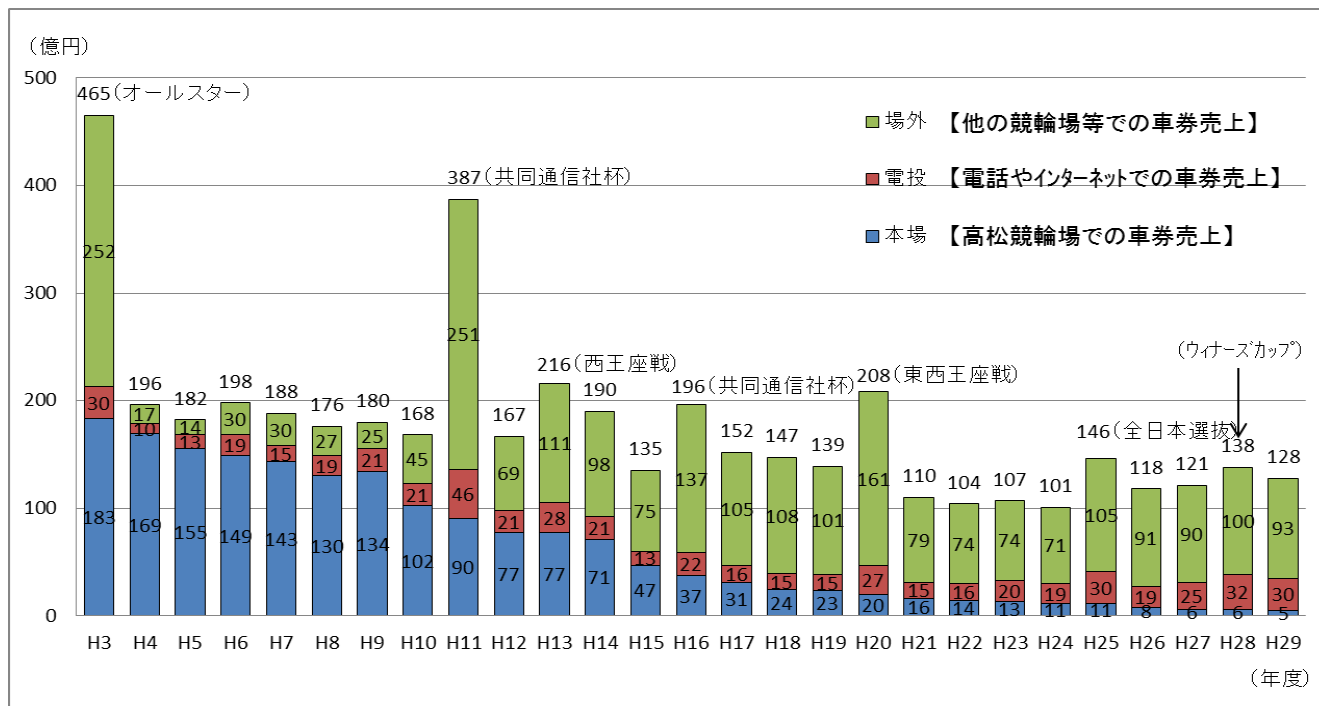
施設名	数	施設名	数
案内所	3か所	自転車等置場	850台
手荷物預り所	2か所	自動車駐車場	1,124台
救護所	1か所	食堂・売店	7か所
休憩所	2か所	コーヒーコーナー	1か所
女性・キッズ休憩コーナー	1か所	場内お客様用テレビ	160台
遊戯施設(チータカ広場)	1か所	A T M 機	4台
ガイドンスコーナー	1か所	公衆電話	1か所

イ 選手宿舍

- (ア) 構造 鉄骨・鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造5階建
- (イ) 建物延べ床面積 3,056.83㎡
- (ウ) 収容人員 120人(1室4人、30室)
- (エ) 竣工 平成11年(築19年)

(3) 高松競輪の車券売上高の推移

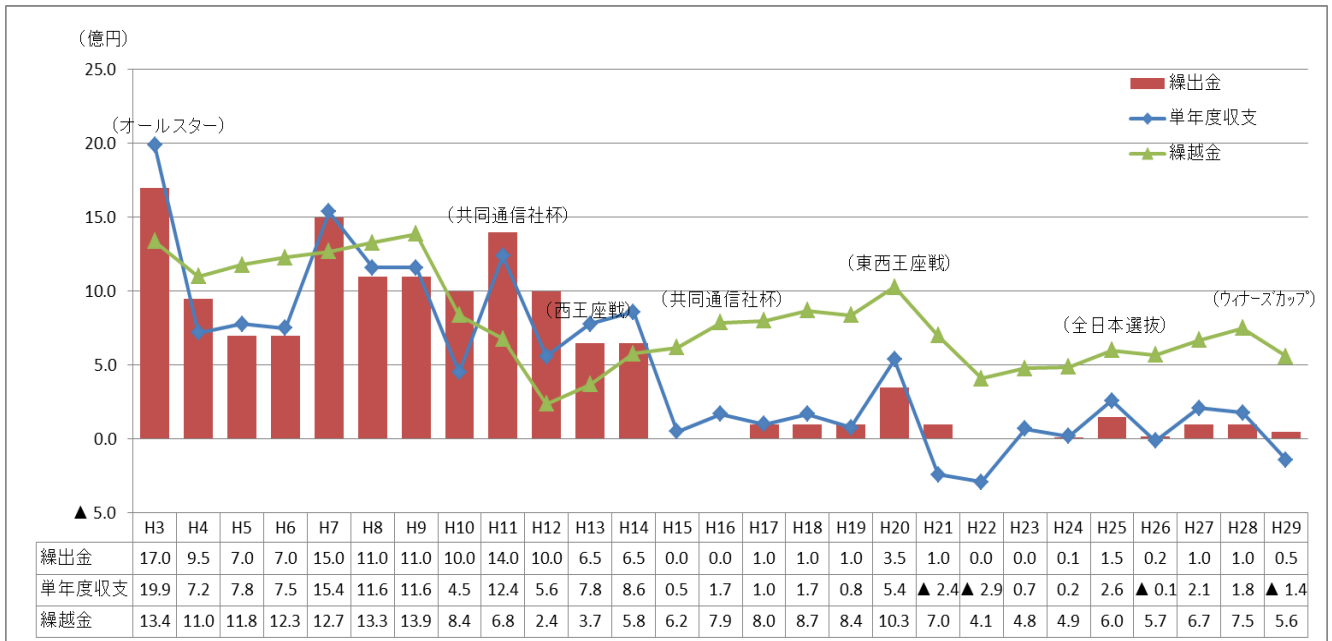
高松競輪の車券売上高は、平成3年度の465億円をピークに、4年度から10年度までの平均が184億円、11年度から20年度(特別競輪の年度を除く)までの平均が155億円、21年度から25年度(特別競輪の年度を除く)までの平均が106億円と減少していたが、26年度以降増加に転じており、26年度から29年度(特別競輪の年度を除く)までの平均が122億円となっている。



(4) 高松競輪の収支及び繰出金の推移

車券売上高の減少により、単年度収支も減少傾向にある。これに伴い、一般会計への繰出金も昭和49年度の22億円をピーク（平成のピークは、平成3年度の17億円）に減少傾向にあり、繰出しができない年もあったが、平成27年度及び28年度は1億円の繰出しを行ったほか、29年度は5,000万円の繰出しを行った。

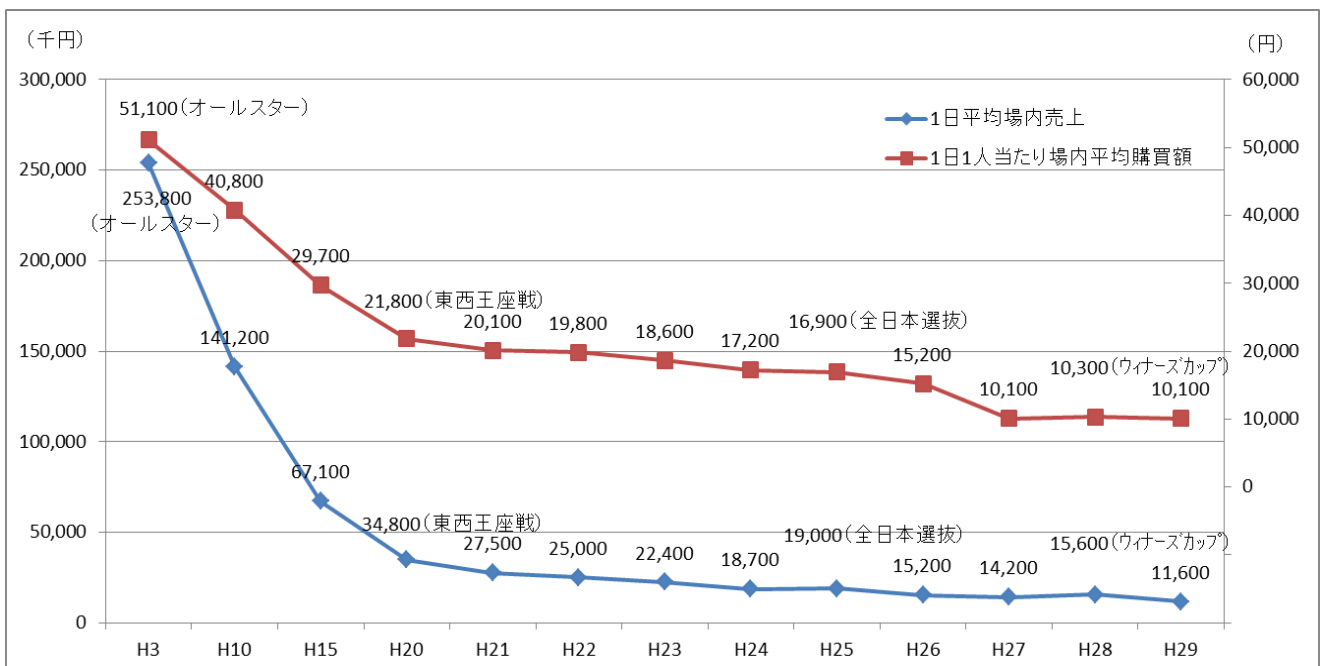
また、平成29年度までの繰出金の累計は407億円余となっている。



(5) 高松競輪の1日平均場内売上高・1日1人当たり購買額

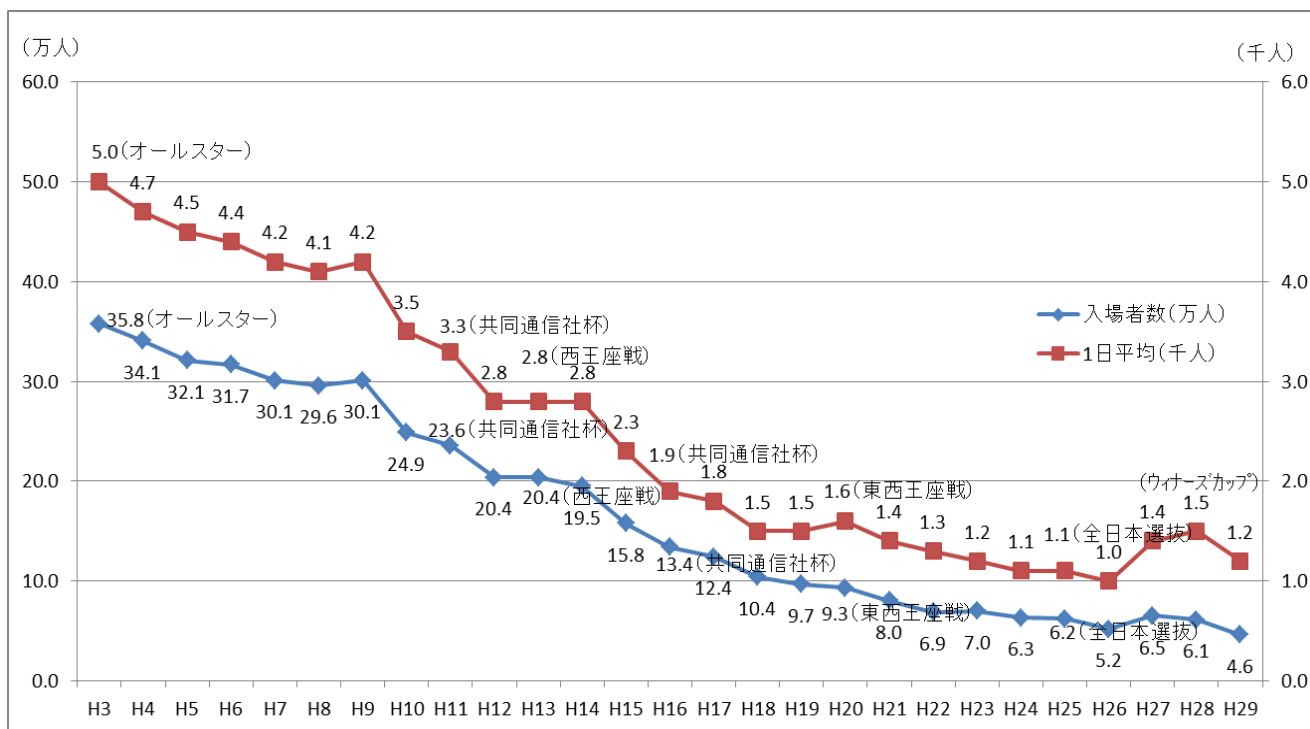
高松競輪の1日平均場内売上高は、平成3年度の2億5,380万円をピークに、減少傾向にあり、29年度は1,160万円となっている。

また、1日1人当たり購買額は、平成3年度の51,100円をピークに減少傾向にあり、29年度は10,100円となっている。



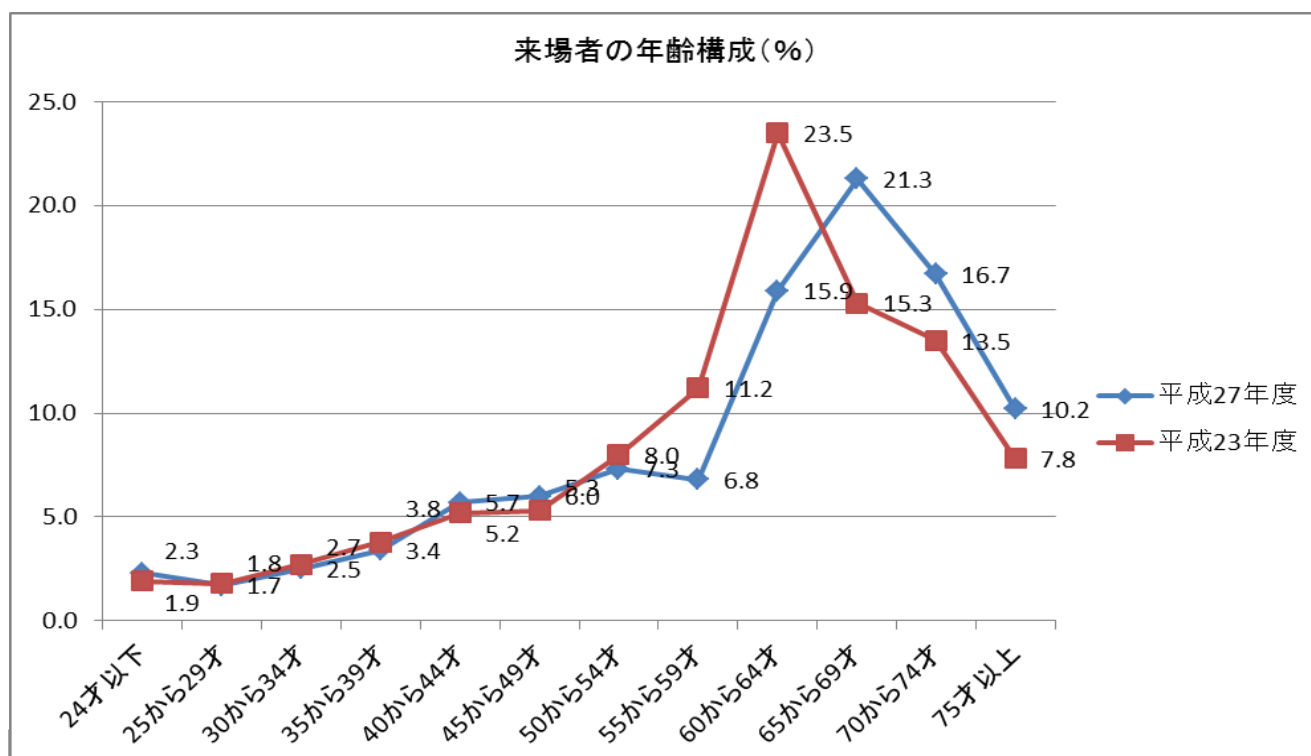
(6) 高松競輪の入場者数の推移

高松競輪の入場者数は、平成3年度の35万8,000人、1日平均5,000人をピークに年々減少し、ここ5年間の平均は5万7,000人、1日平均1,200人となっている。

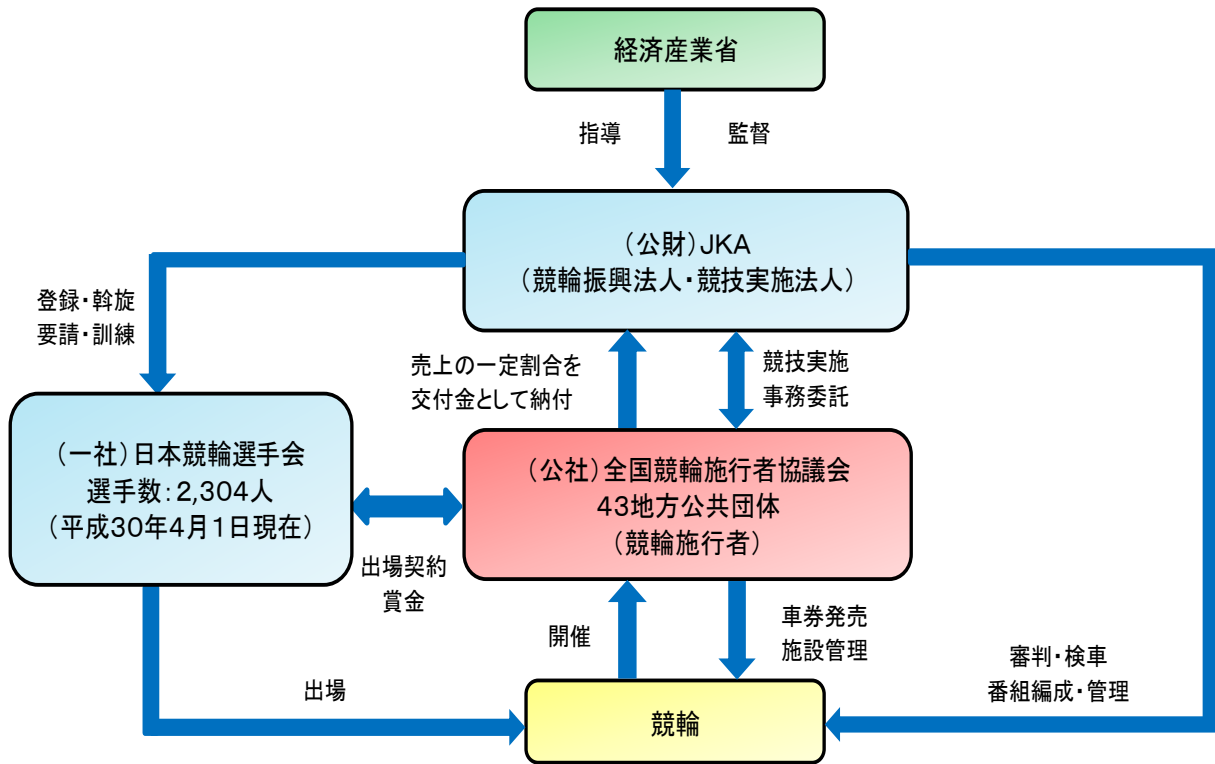


(7) 来場者の年齢構成 (出所：財団法人 JKA 平成27年度競輪定点観測調査より)

(公財) JKA の調査によれば、競輪来場者の平均年齢は、平成3年度は49.8歳であったが、23年度で59.0歳、27年度では60.1歳と、高齢化の進行が顕著である。



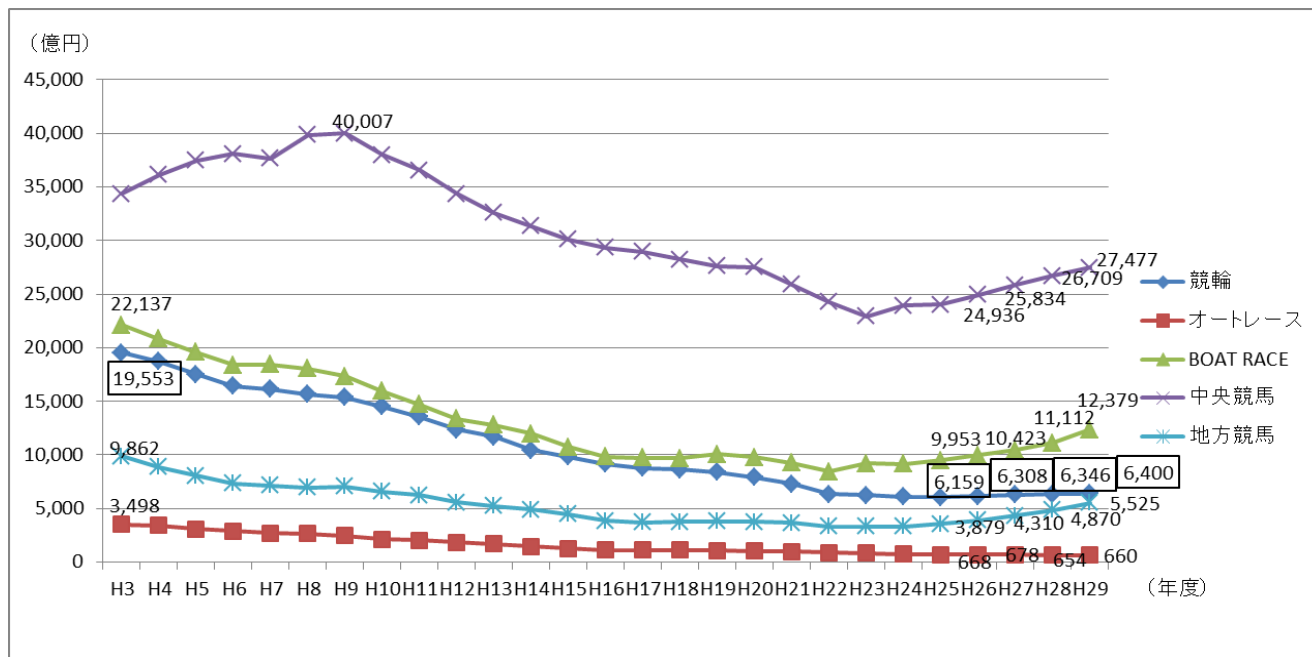
(8) 参考 (競輪関係団体・機関)



(9) 参考（全国公営競技の状況）

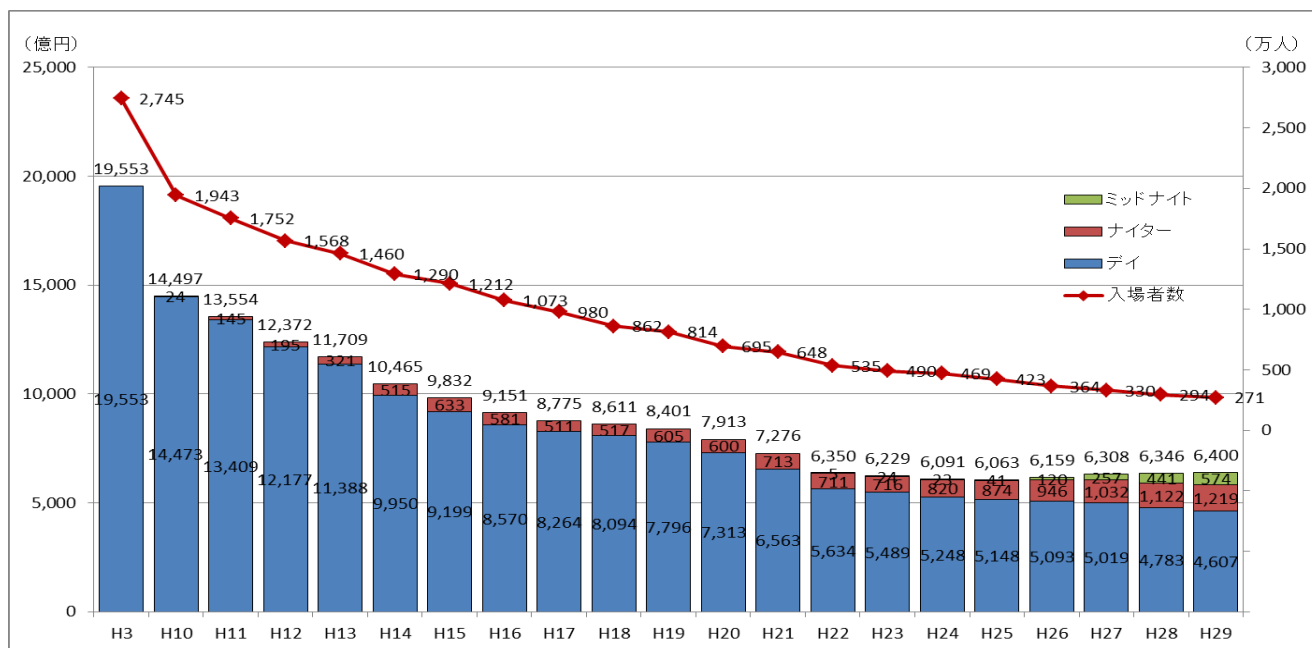
ア 公営競技の状況

公営競技である競輪、オートレース、BOAT RACE、中央競馬及び地方競馬の売上高は減少傾向であったが、中央競馬及び地方競馬は平成24年度、BOAT RACEは25年度、競輪は26年度にそれぞれ増加に転じており、29年度の売上増加率（前年度比）は、地方競馬（13.4%増）、BOAT RACE（11.4%増）、中央競馬（2.9%増）、競輪・オートレース（0.9%増）の順になっている。



イ 競輪事業の状況

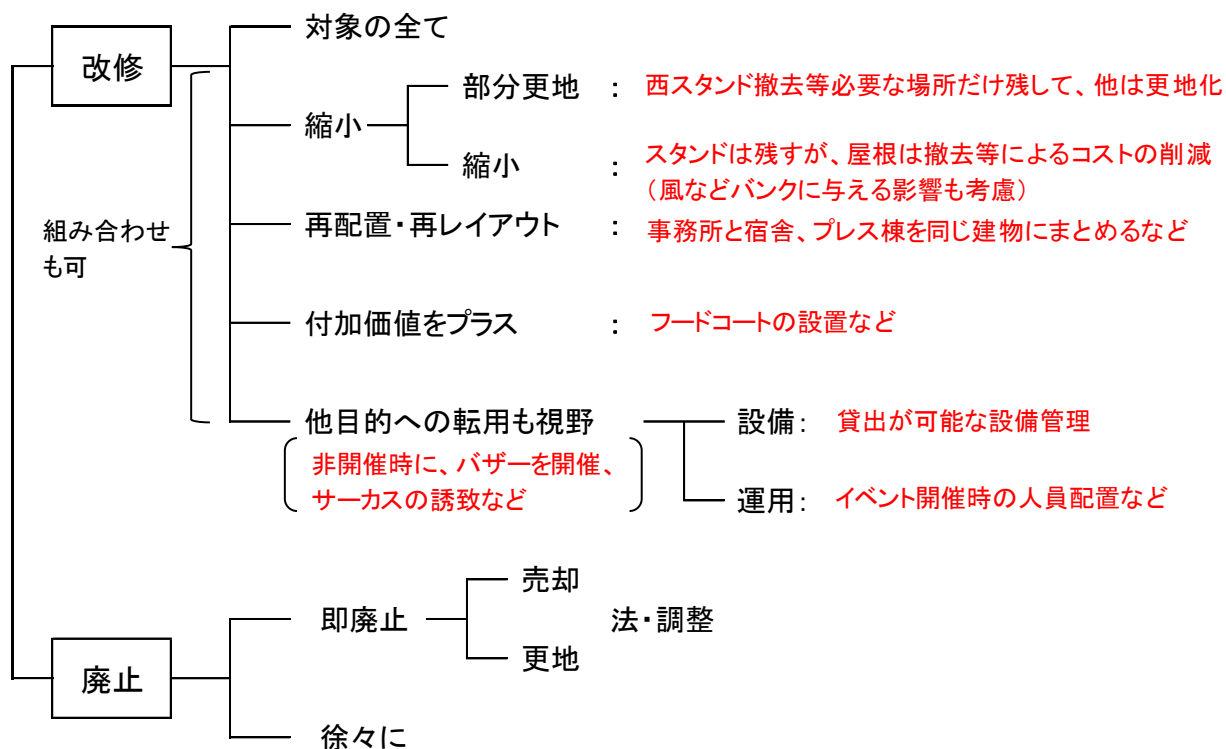
競輪の平成29年度の車券売上高は、前年度比0.9%増の約6,400億円で、26年度以降4年連続で増加している。これはナイター競輪及びミッドナイト競輪の開催日数の増加等によるものである。一方、競輪開催時の本場入場者数は、減少傾向にある。



3 検討手法

選択肢（代替案）と評価基準

(1) 選択肢（代替案）



(2) 評価基準（各委員に役割を周知）

ア 経営

(ア) 収支

(イ) 財源

- ・現在の高松競輪には無い

(ウ) 管理手法

- ・民間への管理委託など

イ 将来性・リスク

- ・シンボリックな部分での貢献
- ・存続・廃止による市へのリスク

ウ スポーツ振興

- ・現在のアマチュアの利用に限らず、育成機関などの発展的なアイデアを

エ 地域経済

- ・売上げ、雇用

オ 地域コミュニティ

- ・子どもたちの遊び場、人が集まる空間
- ・防災（大規模駐車場）

4 検討内容

(1) 評価基準に基づく施設の代替案 (※5頁(2)施設概要を参照)

改修基本パターン一覧

耐震補強
 改築・新築
 統合・新築
 解体・撤去

区分	中央スタンド※1	西スタンド※2	北スタンド※3	選手管理棟	事務所	研修室	摘要1
1	耐震補強 (374,500千円)	①耐震補強 (120,500千円)	耐震補強 (82,500千円)	解体・撤去後、 新築 (164,500千円)	解体・撤去後、 新築 (112,000千円)	解体・撤去後、 新築 (79,640千円)	(①工事費計933,640千円)
		②大屋根・2・3階 撤去・1階改築 (660,500千円)					(②工事費計1,473,640千円)
2	耐震補強 (374,500千円)	解体・撤去後、 投票所新築 (295,000千円)	耐震補強 (82,500千円)	解体・撤去後、 新築 (164,500千円)	解体・撤去後、 新築 (112,000千円)	解体・撤去後、 新築 (79,640千円)	【部分更地・縮小①】 (工事費計1,108,140千円)
3	解体・撤去後、中 央スタンドを新築 (769,000千円)	解体・撤去後、 投票所新築 (295,000千円)	耐震補強 (82,500千円)	解体・撤去後、 新築 (164,500千円)	解体・撤去後、 新築 (112,000千円)	解体・撤去後、 新築 (79,640千円)	【部分更地・縮小②】 (工事費計1,502,640千円)
4	耐震補強 (374,500千円)	解体・撤去後、投 票所、中央集計 室、事務所、研修 室を一体的に 新築 (471,000千円)	耐震補強 (82,500千円)	解体・撤去後、 新築 (164,500千円)	解体・撤去 (17,500千円)	解体・撤去 (11,140千円)	【再配置・再レイアウト①】 ・西スタンドの跡地に投票所、中 央集計室、事務所、研修室を一 体的に新築する。 (工事費計1,121,140千円)
5	耐震補強 (374,500千円)	解体・撤去後、投 票所、中央集計 室、事務所、研修 室を一体的に 新築 (471,000千円)	解体・撤去後、検車場、選手管理棟 を一体的に新築 (413,400千円)	解体・撤去 (17,500千円)	解体・撤去 (11,140千円)	解体・撤去 (11,140千円)	【再配置・再レイアウト②】 ・西スタンドの跡地に投票所、中 央集計室、事務所、研修室を一 体的に新築する。 ・北スタンドと選手管理棟の跡地 に選手管理棟、検車場を一体的 に新築する。 (工事費計1,287,540千円)

※1 中央スタンド:一般席、特別指定席、投票所、中央集計室等 ※2 西スタンド:一般席、投票所 ※3 北スタンド:一般席、検車場

改修基本パターン一覧

区分	摘要2	メリット	デメリット
1	①選手管理棟新築684㎡ ②事務所新築446㎡ ③研修室新築320㎡	・既存のスタンドを生かした耐震補強であり、工事の影響が最小限に抑えられる。	・西スタンドが築46年、北スタンドが築48年を経過しており、耐震補強工事では寿命は延びない。
2	①投票所新築530㎡(西スタンド跡地) ②選手管理棟新築684㎡ ③事務所新築446㎡ ④研修室新築320㎡	・西スタンドを解体・撤去することにより、施設がコンパクトになり、維持管理費の削減を図ることができる。	・投票所新築に伴い、耐震補強に比べ、コストが高くなる。
3	①中央スタンド新築2,600㎡(武雄規模) ②投票所新築530㎡(西スタンド跡地) ③選手管理棟新築684㎡ ④研修室新築320㎡	・中央スタンドをコンパクト化し、高機能化を図ることにより、維持管理費の削減と、サービス向上を図ることができる。 ・西スタンドを解体・撤去することにより、施設がコンパクトになり、維持管理費の削減を図ることができる。	・中央スタンド・投票所新築に伴い、耐震補強に比べ、コストが高くなる。
4	①選手管理棟新築684㎡ ②統合施設新築1,380㎡(投票所530㎡、中央集計室84㎡、事務所446㎡、研修室320㎡の統合)(西スタンド跡地)	・施設を統合することにより、建設費や維持管理費の削減を図ることができる。	・中央集計室・事務所・研修室の移転・統合に伴い、動線の検討が必要になる。
5	①統合施設新築1,380㎡(投票所530㎡、中央集計室84㎡、事務所446㎡、研修室320㎡の統合)(西スタンド跡地) ②統合施設新築1,452㎡(選手管理棟684㎡、検車場768㎡)(北スタンド・選手管理棟跡地)	・施設を統合することにより、建設費や維持管理費の削減を図ることができる。	・中央集計室・事務所・研修室の移転・統合、検車場・選手管理棟の統合に伴い、動線の検討が必要になる。

(2) 収支見直し

ア 収支見直しの前提条件

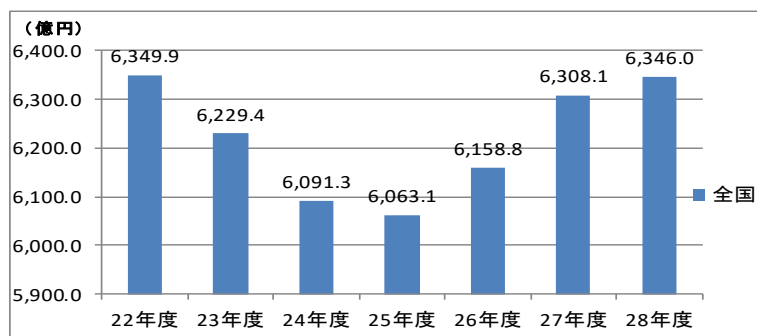
- (ア) 臨時的・突発的な項目を排除し、平準化した収益・支出される費用を前提とする。ただし、西日本カップを3年に1回開催するほか、平成34(2022)年度と39(2027)年度に特別競輪(GⅡ)、(GⅠ)をそれぞれ開催した場合を想定している。
- (イ) 全国的なトレンドとなっているミッドナイト競輪については、全国の競輪場の状況を鑑み、自場開催することを選択肢の一つとして検討を加えた。
- (ウ) ナイター照明有の場合、ミッドナイト競輪の開催日数は、平成30年度までが12日、31(2019)年度が18日、32(2020)年度以降24日となる。
- (エ) モーニング競輪の開催日数は、30年度が6日、31(2019)年度以降12日となる。
- (オ) 事業期間は平成30年度から39(2027)年度までの10年間とする。
- (カ) 売上伸率は全国競輪の近年の売上率を踏まえ、「±0%」と「▲1.5%」の2パターンで試算する。

① 全国競輪の売上高の推移

(単位: 億円)

区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
全グレード (前年比)	6,349.9 (87.3%)	6,229.4 (98.1%)	6,091.3 (97.8%)	6,063.1 (99.5%)	6,158.8 (101.6%)	6,308.1 (102.4%)	6,346.0 (100.6%)

▲1.5% ±0%/



全国の競輪の売上は、平成22年度から25年度にかけて4.5%減少(▲1.5%/年)したが、28年度は、22年度と比較し±0%となっている。

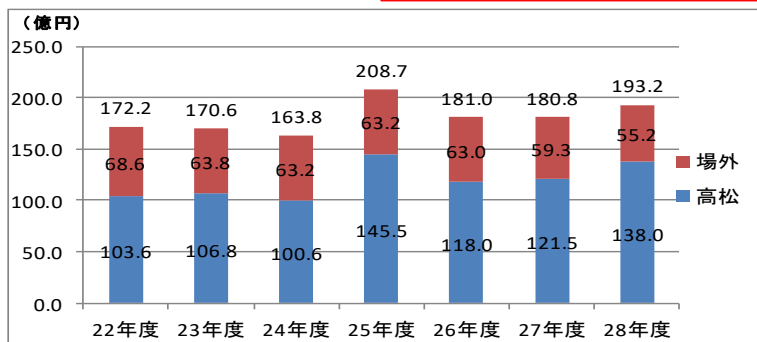
② 高松競輪売上高の推移(25年度、28年度は特別競輪開催)

(単位: 億円)

区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
高松(本場・電投・場外)	103.6	106.8	100.6	145.5	118.0	121.5	138.0
場外	68.6	63.8	63.2	63.2	63.0	59.3	55.2
高松・場外計	172.2	170.6	163.8	208.7	181.0	180.8	193.2
高松(前年比)	(94.2%)	(103.1%)	(94.2%)	(144.6%)	(81.1%)	(103.0%)	(113.6%)
場外(前年比)	(85.9%)	(93.0%)	(99.1%)	(100.0%)	(99.7%)	(94.1%)	(93.1%)
合計(前年比)	(90.7%)	(99.1%)	(96.0%)	(127.4%)	(86.7%)	(99.9%)	(106.9%)

▲2.5%/年

+1%



高松・場外を合わせた売上は、平成22年度から24年度(25年度は特別競輪開催のため除く)にかけて4.9%減少(▲2.5%/年)したが、27年度は、22年度と比較し5%増加(+1%/年)している。

イ 試算結果

売上増減なし・ナイター照明有の場合、平成39（2027）年度末の基金及び繰越金残高は22億5,000万円となり、29年度に比べ約13億円増加している。一方、売上増減なし・ナイター照明無の場合、6億7,000万円となり、29年度に比べ約3億円減少している。また、売上1.5%減・ナイター照明有の場合、平成39（2027）年度末の基金及び繰越金残高は12億3,000万円となり、29年度に比べ約2億6,000万円増加している。一方、売上1.5%減・ナイター照明無の場合、4億4,000万円の赤字となり、29年度に比べ約14億円減少している。

このことから、ナイター照明の設置が、施設改修を行う場合の有効な収入増の策となり得る。

1 売上増減なし・ナイター照明有

（単位：億円）

区分	29年度	30年度	31年度 (2019年度)	32年度 (2020年度)	33年度 (2021年度)	34年度 (2022年度)	35年度 (2023年度)	36年度 (2024年度)	37年度 (2025年度)	38年度 (2026年度)	39年度 (2027年度)
歳入 A	138.96	121.93	129.73	144.50	136.73	150.18	148.49	140.73	142.17	153.62	177.86
歳出 B	128.81	116.09	125.42	137.95	128.74	141.88	137.95	128.74	128.74	137.95	159.25
収支 A-B	10.15	5.84	4.31	6.55	7.99	8.30	10.54	11.99	13.43	15.67	18.61
一般会計 繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
基金十 繰越金	9.64	9.74	8.21	10.44	11.89	12.20	14.44	15.89	17.33	19.57	22.50

2 売上増減なし・ナイター照明無

（単位：億円）

区分	29年度	30年度	31年度 (2019年度)	32年度 (2020年度)	33年度 (2021年度)	34年度 (2022年度)	35年度 (2023年度)	36年度 (2024年度)	37年度 (2025年度)	38年度 (2026年度)	39年度 (2027年度)
歳入 A	138.96	121.93	123.43	133.06	123.18	134.51	130.70	120.81	120.14	129.46	151.58
歳出 B	128.81	116.09	117.95	127.47	118.26	131.40	127.47	118.26	118.26	127.47	148.78
収支 A-B	10.15	5.84	5.48	5.59	4.92	3.11	3.23	2.55	1.88	1.99	2.80
一般会計 繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
基金十 繰越金	9.64	9.74	9.38	9.49	8.82	7.01	7.12	6.45	5.77	5.89	6.70

3 売上1.5%減・ナイター照明有

（単位：億円）

区分	29年度	30年度	31年度 (2019年度)	32年度 (2020年度)	33年度 (2021年度)	34年度 (2022年度)	35年度 (2023年度)	36年度 (2024年度)	37年度 (2025年度)	38年度 (2026年度)	39年度 (2027年度)
歳入 A	138.96	121.93	128.22	141.22	132.03	142.65	138.42	128.97	127.66	134.81	153.02
歳出 B	128.81	116.09	123.70	134.92	124.95	136.13	130.86	121.33	120.17	127.01	144.64
収支 A-B	10.15	5.84	4.52	6.30	7.08	6.52	7.56	7.64	7.49	7.80	8.38
一般会計 繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
基金十 繰越金	9.64	9.74	8.42	10.20	10.98	10.42	11.46	11.54	11.40	11.70	12.28

4 売上1.5%減・ナイター照明無

（単位：億円）

区分	29年度	30年度	31年度 (2019年度)	32年度 (2020年度)	33年度 (2021年度)	34年度 (2022年度)	35年度 (2023年度)	36年度 (2024年度)	37年度 (2025年度)	38年度 (2026年度)	39年度 (2027年度)
歳入 A	138.96	121.93	121.91	129.31	117.94	126.37	120.01	108.37	104.87	109.82	125.83
歳出 B	128.81	116.09	116.66	124.44	114.45	125.56	120.33	110.78	109.60	116.43	134.08
収支 A-B	10.15	5.84	5.25	4.87	3.49	0.81	▲ 0.32	▲ 2.41	▲ 4.73	▲ 6.61	▲ 8.25
一般会計 繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
基金十 繰越金	9.64	9.74	9.15	8.77	7.39	4.71	3.57	1.49	▲ 0.83	▲ 2.71	▲ 4.35

※表中、これまでの検討結果との整合性を図るため、現在の元号年度と西暦を併記した。以下同じ取扱いとしている。

(3) 施設改修の実現性

改修基本パターン毎に、実際に改修工事を行うとした場合の、本場開催ができない期間、他場借上げの必要性、売上等への影響については、次のとおりである。

改修パターン	改修内容	本場開催ができない期間	他場借上げの必要性	売上等への影響
1	西・北・中央スタンド：耐震工事 選手管理棟・事務所・研修室：解体・新築	32（2020）年度：4か月 33（2021）年度：5か月 【北スタンド・選手管理棟工事期間中】	無	無
2	北・中央スタンド：耐震工事 西スタンド：解体・跡地に投票所を新築 選手管理棟・事務所・研修室：解体・新築	同上	無	無
3	北スタンド：耐震工事 西スタンド：解体・跡地に投票所を新築 選手管理棟・中央スタンド・事務所・研修室：解体・新築	32（2020）年度：4か月 33（2021）年度：5か月 34（2022）年度：6か月 35（2023）年度：7か月 【北スタンド・選手管理棟・中央スタンド工事、システム移設期間中】	無	①34（2022）年度：中央集計室システム移設に伴い1か月場外開催不可（仮設集計室設置費用：20,000千円、システム移設費用：60,000千円、開催不可に伴う場外収入減▲30,000千円）。 ②35（2023）年度：中央集計室システム移設に伴い1か月場外開催不可（システム移設費用：60,000千円、開催不可に伴う場外収入減▲30,000千円）。
4	北・中央スタンド：耐震工事 西スタンド：解体・跡地に投票所・中央集計室・事務所・研修室を一体的に新築 選手管理棟：解体・新築	32（2020）年度：4か月 33（2021）年度：5か月 【北スタンド・選手管理棟工事、システム移設期間中】	無	33（2021）年度：中央集計室システム移設に伴い1か月場外開催不可（システム移設費用：60,000千円、開催不可に伴う場外収入減▲30,000千円）。
5	中央スタンド：耐震工事 西スタンド：解体・跡地に投票所・中央集計室・事務所・研修室を一体的に新築 北スタンド：解体・跡地に検車場・選手管理棟を一体的に新築	32（2020）年度：5か月 33（2021）年度：6か月 【北スタンド・選手管理棟工事、システム移設期間中】	無	同上

次に、改修基本パターンについて、収支見通しの「売上増減なし・ナイター照明有」と「売上1.5%減・ナイター照明有」に売上等への影響も反映させて試算した結果は、次のとおりである。

ア 改修基本パターン1 (工事費: 933,640 千円)

1 売上増減なし・ナイター照明有

(単位: 千円)

区分	29年度	30年度	31(2019)年度	32(2020)年度	33(2021)年度	34(2022)年度	35(2023)年度	36(2024)年度	37(2025)年度	38(2026)年度	39(2027)年度	
歳入	車券発売収入①	12,833,476	11,260,000	12,030,000	13,660,000	12,660,000	13,860,000	13,660,000	12,660,000	12,660,000	13,660,000	15,860,000
	その他収入②	312,235	368,666	368,748	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831
	基金繰入金③			200,000		30,000	140,000	150,000				
	市債④											
	単年度歳入A(①+②+③+④)	13,145,711	11,628,666	12,598,748	14,028,831	13,058,831	14,368,831	14,178,831	13,028,831	13,028,831	14,028,831	16,228,831
	前年度繰越金B	750,072	564,319	373,724	370,678	369,817	361,016	355,968	350,127	344,826	339,524	333,163
	歳入合計C(A+B)	13,895,783	12,192,985	12,972,472	14,399,509	13,428,649	14,729,847	14,534,799	13,378,958	13,373,657	14,368,355	16,561,994
歳出	固定経費①	1,172,238	1,267,442	1,297,773	1,321,111	1,318,111	1,524,751	1,321,111	1,318,111	1,318,111	1,321,111	1,638,063
	変動経費②	11,674,353	10,341,819	11,044,021	12,474,081	11,556,022	12,662,968	12,474,081	11,556,022	11,556,022	12,474,081	14,287,389
	公債費(元金償還金・市債利子)③	34,873	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ナイター照明設備④			200,000								
	耐震等工事⑤			30,000	164,500	183,500	176,160	379,480				
	歳出合計D(①+②+③+④+⑤)	12,881,464	11,609,261	12,571,794	13,959,692	13,057,633	14,363,879	14,174,672	12,874,133	12,874,133	13,795,192	15,925,452
歳入-歳出E(C-D)	1,014,319	583,724	400,678	439,817	371,016	365,968	360,127	504,826	499,524	573,163	636,542	
内)単年度収支(A-D)	264,247	19,405	26,954	69,139	1,198	4,952	4,159	154,698	154,698	233,639	303,379	
一般会計繰出金	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
基金積立額	400,000	200,000	20,000	60,000				150,000	150,000	230,000	300,000	
基金運用収入		320	480	337	385	361	250	130	250	370	554	
基金取崩額			200,000		30,000	140,000	150,000					
基金残高	400,000	600,320	420,800	481,137	451,522	311,883	162,133	312,262	462,512	692,882	993,436	
繰越金残高	564,319	373,724	370,678	369,817	361,016	355,968	350,127	344,826	339,524	333,163	326,542	
基金残高+繰越金残高	964,319	974,044	791,478	850,954	812,538	667,851	512,260	657,088	802,036	1,026,045	1,319,978	

全て基金+繰越金で対応可能

39(2027)年度末基金+繰越金: 1,319,978 千円【工事費全額支払後残高】

2 売上1.5%減・ナイター照明有

(単位: 千円)

区分	29年度	30年度	31(2019)年度	32(2020)年度	33(2021)年度	34(2022)年度	35(2023)年度	36(2024)年度	37(2025)年度	38(2026)年度	39(2027)年度	
歳入	車券発売収入①	12,833,476	11,260,000	11,889,450	13,331,485	12,247,741	13,244,025	12,889,455	11,853,748	11,726,340	12,467,018	14,270,258
	その他収入②	312,235	368,666	358,718	348,397	335,491	322,779	310,258	297,924	285,775	273,809	262,022
	基金繰入金③			200,000		100,000	176,000	195,000				
	市債④											
	単年度歳入A(①+②+③+④)	13,145,711	11,628,666	12,448,168	13,679,882	12,683,233	13,742,804	13,394,713	12,151,672	12,012,115	12,740,827	14,532,280
	前年度繰越金B	750,072	564,319	373,724	361,683	355,291	350,322	293,949	212,803	221,540	206,925	236,929
	歳入合計C(A+B)	13,895,783	12,192,985	12,821,892	14,041,565	13,038,523	14,093,126	13,688,662	12,364,475	12,233,655	12,947,752	14,769,209
歳出	固定経費①	1,172,238	1,267,442	1,297,773	1,321,111	1,318,111	1,524,751	1,321,111	1,318,111	1,318,111	1,321,111	1,638,063
	変動経費②	11,674,353	10,341,819	10,872,436	12,170,664	11,176,590	12,088,266	11,765,268	10,814,824	10,698,619	11,379,712	12,825,954
	公債費(元金償還金・市債利子)③	34,873	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ナイター照明設備④			200,000								
	耐震等工事⑤			30,000	164,500	183,500	176,160	379,480				
	歳出合計D(①+②+③+④+⑤)	12,881,464	11,609,261	12,400,210	13,656,274	12,678,201	13,789,177	13,465,858	12,132,935	12,016,730	12,700,823	14,464,017
歳入-歳出E(C-D)	1,014,319	583,724	421,683	385,291	360,322	303,949	222,803	231,540	216,925	246,929	305,192	
内)単年度収支(A-D)	264,247	19,405	47,959	23,608	5,031	▲ 46,373	▲ 71,146	18,737	▲ 4,615	40,004	68,263	
一般会計繰出金	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
基金積立額	400,000	200,000	50,000	20,000								
基金運用収入		320	480	361	377	297	157	1	1	1	1	
基金取崩額			200,000		100,000	176,000	195,000					
基金残高	400,000	600,320	450,800	471,161	371,538	195,835	992	993	993	994	995	
繰越金残高	564,319	373,724	361,683	355,291	350,322	293,949	212,803	221,540	206,925	236,929	295,192	
基金残高+繰越金残高	964,319	974,044	812,483	826,451	721,860	489,784	213,795	222,533	207,919	237,923	296,187	

全て基金+繰越金で対応可能

39(2027)年度末基金+繰越金: 296,187 千円【工事費全額支払後残高】

イ 改修基本パターン2（工事費：1,108,140千円）

1 売上増減なし・ナイター照明有

（単位：千円）

区分	29年度	30年度	31(2019)年度	32(2020)年度	33(2021)年度	34(2022)年度	35(2023)年度	36(2024)年度	37(2025)年度	38(2026)年度	39(2027)年度	
歳入	車券発売収入①	12,833,476	11,260,000	12,030,000	13,660,000	12,660,000	13,860,000	13,660,000	12,660,000	12,660,000	13,660,000	15,860,000
	その他収入②	312,235	368,666	368,748	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831
	基金繰入金③			200,000	60,000	90,000	140,000	150,000				
	市債④											
	単年度歳入A(①+②+③+④)	13,145,711	11,628,666	12,598,748	14,088,831	13,118,831	14,368,831	14,178,831	13,028,831	13,028,831	14,028,831	16,228,831
	前年度繰越金B	750,072	564,319	373,724	372,178	358,317	346,516	341,468	335,627	330,326	325,024	318,663
	歳入合計C(A+B)	13,895,783	12,192,985	12,972,472	14,461,009	13,477,149	14,715,347	14,520,299	13,364,458	13,359,157	14,353,855	16,547,494
歳出	固定経費①	1,172,238	1,267,442	1,297,773	1,321,111	1,318,111	1,524,751	1,321,111	1,318,111	1,318,111	1,321,111	1,638,063
	変動経費②	11,674,353	10,341,819	11,044,021	12,474,081	11,556,022	12,662,968	12,474,081	11,556,022	11,556,022	12,474,081	14,287,389
	公債費(元金償還金・市債利子)③	34,873	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ナイター照明設備④			200,000								
	耐震等工事⑤			28,500	287,500	236,500	176,160	379,480				
	歳出合計D(①+②+③+④+⑤)	12,881,464	11,609,261	12,570,294	14,082,692	13,110,633	14,363,879	14,174,672	12,874,133	12,874,133	13,795,192	15,925,452
歳入－歳出E(C-D)	1,014,319	583,724	402,178	378,317	366,516	351,468	345,627	490,326	485,024	558,663	622,042	
内)単年度収支(A-D)	264,247	19,405	28,454	6,139	8,198	4,952	4,159	154,698	154,698	233,639	303,379	
一般会計繰出金	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
基金積立額	400,000	200,000	20,000	10,000	10,000			150,000	150,000	230,000	300,000	
基金運用収入		320	480	337	297	233	121	1	121	242	426	
基金取崩額			200,000	60,000	90,000	140,000	150,000					
基金残高	400,000	600,320	420,800	371,137	291,434	151,667	1,788	151,790	301,911	532,153	832,578	
繰越金残高	564,319	373,724	372,178	358,317	346,516	341,468	335,627	330,326	325,024	318,663	312,042	
基金残高+繰越金残高	964,319	974,044	792,978	729,454	637,950	493,135	337,415	482,115	626,935	850,815	1,144,620	

全て基金+繰越金で対応可能

39(2027)年度末基金+繰越金：1,144,620千円【工事費全額支払後残高】

2 売上1.5%減・ナイター照明有

（単位：千円）

区分	29年度	30年度	31(2019)年度	32(2020)年度	33(2021)年度	34(2022)年度	35(2023)年度	36(2024)年度	37(2025)年度	38(2026)年度	39(2027)年度	
歳入	車券発売収入①	12,833,476	11,260,000	11,889,450	13,331,485	12,247,741	13,244,025	12,889,455	11,853,748	11,726,340	12,467,018	14,270,258
	その他収入②	312,235	368,666	358,718	348,397	335,491	322,779	310,258	297,924	285,775	273,809	262,022
	基金繰入金③			200,000	100,000	150,000	170,000	21,000				
	市債④							250,000				
	単年度歳入A(①+②+③+④)	13,145,711	11,628,666	12,448,168	13,779,882	12,733,233	13,736,804	13,470,713	12,151,672	12,012,115	12,740,827	14,532,280
	前年度繰越金B	750,072	564,319	373,724	363,183	353,791	345,822	283,449	278,303	282,040	262,425	287,429
	歳入合計C(A+B)	13,895,783	12,192,985	12,821,892	14,143,065	13,087,023	14,082,626	13,754,162	12,429,975	12,294,155	13,003,252	14,819,709
歳出	固定経費①	1,172,238	1,267,442	1,297,773	1,321,111	1,318,111	1,524,751	1,321,111	1,318,111	1,318,111	1,321,111	1,638,063
	変動経費②	11,674,353	10,341,819	10,872,436	12,170,664	11,176,590	12,088,266	11,765,268	10,814,824	10,698,619	11,379,712	12,825,954
	公債費(元金償還金・市債利子)③	34,873	0	0	0	0	0	0	5,000	5,000	5,000	27,708
	ナイター照明設備④			200,000								
	耐震等工事⑤			28,500	287,500	236,500	176,160	379,480				
	歳出合計D(①+②+③+④+⑤)	12,881,464	11,609,261	12,398,710	13,779,274	12,731,201	13,789,177	13,465,858	12,137,935	12,021,730	12,705,823	14,491,725
歳入－歳出E(C-D)	1,014,319	583,724	423,183	363,791	355,822	293,449	288,303	292,040	272,425	297,429	327,984	
内)単年度収支(A-D)	264,247	19,405	49,459	608	2,031	▲ 52,373	4,854	13,737	▲ 9,615	35,004	40,555	
一般会計繰出金	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
基金積立額	400,000	200,000	50,000									
基金運用収入		320	480	361	281	161	25	9	9	9	9	
基金取崩額			200,000	100,000	150,000	170,000	21,000					
基金残高	400,000	600,320	450,800	351,161	201,442	31,603	10,628	10,637	10,645	10,654	10,662	
繰越金残高	564,319	373,724	363,183	353,791	345,822	283,449	278,303	282,040	262,425	287,429	317,984	
基金残高+繰越金残高	964,319	974,044	813,983	704,951	547,264	315,052	288,932	292,677	273,071	298,083	328,646	

市債借入れが必要：250,000千円（総額 292,077千円）

39(2027)年度末基金+繰越金：328,646千円>市債償還残額：249,369千円（償還残期間9年）

ウ 改修基本パターン3（工事費：1,502,640千円）

1 売上増減なし・ナイター照明有

（単位：千円）

区分	29年度	30年度	31(2019)年度	32(2020)年度	33(2021)年度	34(2022)年度	35(2023)年度	36(2024)年度	37(2025)年度	38(2026)年度	39(2027)年度	
歳入	車券発売収入①	12,833,476	11,260,000	12,030,000	13,660,000	12,660,000	13,860,000	13,660,000	12,660,000	12,660,000	15,860,000	
	その他収入②	312,235	368,666	368,748	368,831	368,831	338,831	338,831	368,831	368,831	368,831	
	基金繰入金③			200,000	60,000	100,000	260,000					
	市債④						330,000	310,000				
	単年度歳入A(①+②+③+④)	13,145,711	11,628,666	12,598,748	14,088,831	13,128,831	14,788,831	14,308,831	13,028,831	13,028,831	16,228,831	
	前年度繰越金B	750,072	564,319	373,724	372,178	368,317	372,016	373,128	374,527	366,426	358,324	349,188
	歳入合計C(A+B)	13,895,783	12,192,985	12,972,472	14,461,009	13,497,149	15,160,847	14,681,959	13,403,358	13,395,257	14,387,155	16,578,019
歳出	固定経費①	1,172,238	1,267,442	1,297,773	1,321,111	1,318,111	1,524,751	1,321,111	1,318,111	1,318,111	1,321,111	1,638,063
	変動経費②	11,674,353	10,341,819	11,044,021	12,474,081	11,556,022	12,662,968	12,474,081	11,556,022	11,556,022	12,474,081	14,287,389
	公債費(元金償還金・市債利子)③	34,873	0	0	0	0	0	6,600	12,800	12,800	42,775	70,932
	ナイター照明設備④			200,000								
	耐震等工事⑤			28,500	287,500	241,000	590,000	495,640				
	歳出合計D(①+②+③+④+⑤)	12,881,464	11,609,261	12,570,294	14,082,692	13,115,133	14,777,719	14,297,432	12,886,933	12,886,933	13,837,967	15,996,384
歳入－歳出E(C-D)	1,014,319	583,724	402,178	378,317	382,016	383,128	384,527	516,426	508,324	549,188	581,635	
内)単年度収支(A-D)	264,247	19,405	28,454	6,139	13,698	11,112	11,399	141,898	141,898	190,864	232,447	
一般会計繰出金	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
基金積立額	400,000	200,000	20,000					140,000	140,000	190,000	230,000	
基金運用収入		320	480	337	289	209	1	1	113	225	378	
基金取崩額			200,000	60,000	100,000	260,000						
基金残高	400,000	600,320	420,800	361,137	261,426	1,635	1,636	141,638	281,751	471,976	702,354	
繰越金残高	564,319	373,724	372,178	368,317	372,016	373,128	374,527	366,426	358,324	349,188	341,635	
基金残高+繰越金残高	964,319	974,044	792,978	729,454	633,442	374,763	376,163	508,063	640,075	821,164	1,043,989	

市債借入れが必要：640,000千円（総額747,717千円）

39（2027）年度末基金+繰越金：1,043,989千円>市債償還残額：601,810千円（償還残期間9年）

2 売上1.5%減・ナイター照明有

（単位：千円）

区分	29年度	30年度	31(2019)年度	32(2020)年度	33(2021)年度	34(2022)年度	35(2023)年度	36(2024)年度	37(2025)年度	38(2026)年度	39(2027)年度	
歳入	車券発売収入①	12,833,476	11,260,000	11,889,450	13,331,485	12,247,741	13,244,025	12,889,455	11,853,748	11,726,340	12,467,018	14,270,258
	その他収入②	312,235	368,666	358,718	348,397	335,491	292,779	280,258	297,924	285,775	273,809	262,022
	基金繰入金③			200,000	100,000	160,000	180,000					
	市債④						410,000	430,000				
	単年度歳入A(①+②+③+④)	13,145,711	11,628,666	12,448,168	13,779,882	12,743,233	14,126,804	13,599,713	12,151,672	12,012,115	12,740,827	14,532,280
	前年度繰越金B	750,072	564,319	373,724	373,183	363,791	361,322	275,109	274,603	266,540	235,125	211,088
	歳入合計C(A+B)	13,895,783	12,192,985	12,821,892	14,153,065	13,107,023	14,488,126	13,874,822	12,426,275	12,278,655	12,975,952	14,743,368
歳出	固定経費①	1,172,238	1,267,442	1,297,773	1,321,111	1,318,111	1,524,751	1,321,111	1,318,111	1,318,111	1,321,111	1,638,063
	変動経費②	11,674,353	10,341,819	10,872,436	12,170,664	11,176,590	12,088,266	11,765,268	10,814,824	10,698,619	11,379,712	12,825,954
	公債費(元金償還金・市債利子)③	34,873	0	0	0	0	0	8,200	16,800	16,800	54,041	93,098
	ナイター照明設備④			200,000								
	耐震等工事⑤			28,500	287,500	241,000	590,000	495,640				
	歳出合計D(①+②+③+④+⑤)	12,881,464	11,609,261	12,398,710	13,779,274	12,735,701	14,203,017	13,590,218	12,149,735	12,033,530	12,754,864	14,557,115
歳入－歳出E(C-D)	1,014,319	583,724	423,183	373,791	371,322	285,109	284,603	276,540	245,125	221,088	186,253	
内)単年度収支(A-D)	264,247	19,405	49,459	608	7,531	▲76,213	9,494	1,937	▲21,415	▲14,037	▲24,835	
一般会計繰出金	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
基金積立額	400,000	200,000	40,000									
基金運用収入		320	480	353	273	145	1	1	1	1	1	
基金取崩額			200,000	100,000	160,000	180,000						
基金残高	400,000	600,320	440,800	341,153	181,426	1,571	1,572	1,573	1,575	1,576	1,577	
繰越金残高	564,319	373,724	373,183	363,791	361,322	275,109	274,603	266,540	235,125	211,088	176,253	
基金残高+繰越金残高	964,319	974,044	813,983	704,943	542,748	276,680	276,176	268,114	236,700	212,664	177,830	

市債借入れが必要：840,000千円（総額981,378千円）

39（2027）年度末基金+繰越金：177,830千円<市債償還残額：792,439千円（償還残期間9年）

工 改修基本パターン4（工事費：1,121,140千円）

1 売上増減なし・ナイター照明有

（単位：千円）

区分	29年度	30年度	31(2019)年度	32(2020)年度	33(2021)年度	34(2022)年度	35(2023)年度	36(2024)年度	37(2025)年度	38(2026)年度	39(2027)年度	
歳入	車券発売収入①	12,833,476	11,260,000	12,030,000	13,660,000	12,660,000	13,860,000	13,660,000	12,660,000	12,660,000	13,660,000	15,860,000
	その他収入②	312,235	368,666	368,748	368,831	338,831	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831
	基金繰入金③			200,000	140,000	270,000	11,000					
	市債④						140,000					
	単年度歳入A(①+②+③+④)	13,145,711	11,628,666	12,598,748	14,168,831	13,268,831	14,379,831	14,028,831	13,028,831	13,028,831	14,028,831	16,228,831
	前年度繰越金B	750,072	564,319	373,724	366,178	357,317	353,516	353,828	370,827	362,726	354,624	352,746
	歳入合計C(A+B)	13,895,783	12,192,985	12,972,472	14,535,009	13,626,149	14,733,347	14,382,659	13,399,658	13,391,557	14,383,455	16,581,577
歳出	固定経費①	1,172,238	1,267,442	1,297,773	1,321,111	1,318,111	1,524,751	1,321,111	1,318,111	1,318,111	1,321,111	1,638,063
	変動経費②	11,674,353	10,341,819	11,044,021	12,474,081	11,556,022	12,662,968	12,474,081	11,556,022	11,556,022	12,474,081	14,287,389
	公債費(元金償還金・市債利子)③	34,873	0	0	0	0	0	2,800	2,800	2,800	15,517	15,517
	ナイター照明設備④			200,000								
	耐震等工事⑤			34,500	372,500	388,500	181,800	203,840				
	歳出合計D(①+②+③+④+⑤)	12,881,464	11,609,261	12,576,294	14,167,692	13,262,633	14,369,519	14,001,832	12,876,933	12,876,933	13,810,709	15,940,969
歳入－歳出E(C-D)	1,014,319	583,724	396,178	367,317	363,516	363,828	380,827	522,726	514,624	572,746	640,608	
内)単年度収支(A-D)	264,247	19,405	22,454	1,139	6,198	10,312	26,999	151,898	151,898	218,122	287,862	
一般会計繰出金	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
基金積立額	400,000	200,000	20,000					150,000	150,000	210,000	280,000	
基金運用収入		320	480	337	225	9	0	0	120	240	409	
基金取崩額			200,000	140,000	270,000	11,000						
基金残高	400,000	600,320	420,800	281,137	11,362	371	371	150,371	300,492	510,732	791,141	
繰越金残高	564,319	373,724	366,178	357,317	353,516	353,828	370,827	362,726	354,624	352,746	350,608	
基金残高+繰越金残高	964,319	974,044	786,978	638,454	364,878	354,199	371,198	513,097	655,116	863,478	1,141,749	

市債借入れが必要：140,000千円（総額163,563千円）

39(2027)年度末基金+繰越金：1,141,749千円>市債償還残額：124,129千円（償還残期間8年）

2 売上1.5%減・ナイター照明有

（単位：千円）

区分	29年度	30年度	31(2019)年度	32(2020)年度	33(2021)年度	34(2022)年度	35(2023)年度	36(2024)年度	37(2025)年度	38(2026)年度	39(2027)年度	
歳入	車券発売収入①	12,833,476	11,260,000	11,889,450	13,331,485	12,247,741	13,244,025	12,889,455	11,853,748	11,726,340	12,467,018	14,270,258
	その他収入②	312,235	368,666	358,718	348,397	305,491	322,779	310,258	297,924	285,775	273,809	262,022
	基金繰入金③			200,000	190,000	251,000						
	市債④						180,000	100,000				
	単年度歳入A(①+②+③+④)	13,145,711	11,628,666	12,448,168	13,869,882	12,804,233	13,746,804	13,299,713	12,151,672	12,012,115	12,740,827	14,532,280
	前年度繰越金B	750,072	564,319	373,724	367,183	362,791	273,822	215,809	211,703	214,840	194,625	202,679
	歳入合計C(A+B)	13,895,783	12,192,985	12,821,892	14,237,065	13,167,023	14,020,626	13,515,522	12,363,375	12,226,955	12,935,452	14,734,959
歳出	固定経費①	1,172,238	1,267,442	1,297,773	1,321,111	1,318,111	1,524,751	1,321,111	1,318,111	1,318,111	1,321,111	1,638,063
	変動経費②	11,674,353	10,341,819	10,872,436	12,170,664	11,176,590	12,088,266	11,765,268	10,814,824	10,698,619	11,379,712	12,825,954
	公債費(元金償還金・市債利子)③	34,873	0	0	0	0	0	3,600	5,600	5,600	21,950	31,033
	ナイター照明設備④			200,000								
	耐震等工事⑤			34,500	372,500	388,500	181,800	203,840				
	歳出合計D(①+②+③+④+⑤)	12,881,464	11,609,261	12,404,710	13,864,274	12,883,201	13,794,817	13,293,818	12,138,535	12,022,330	12,722,773	14,495,050
歳入－歳出E(C-D)	1,014,319	583,724	417,183	372,791	283,822	225,809	221,703	224,840	204,625	212,679	239,909	
内)単年度収支(A-D)	264,247	19,405	43,459	5,608	▲78,969	▲48,013	5,894	13,137	▲10,215	18,054	37,230	
一般会計繰出金	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
基金積立額	400,000	200,000	40,000									
基金運用収入		320	480	353	201	0	0	0	0	0	0	
基金取崩額			200,000	190,000	251,000							
基金残高	400,000	600,320	440,800	251,153	354	354	354	355	355	355	356	
繰越金残高	564,319	373,724	367,183	362,791	273,822	215,809	211,703	214,840	194,625	202,679	229,909	
基金残高+繰越金残高	964,319	974,044	807,983	613,943	274,176	216,163	212,058	215,195	194,980	203,034	230,264	

市債借入れが必要：280,000千円（総額327,126千円）

39(2027)年度末基金+繰越金：230,264千円<市債償還残額：259,343千円（償還残期間9年）

オ 改修基本パターン5（工事費：1,287,540千円）

1 売上増減なし・ナイター照明有

（単位：千円）

区分	29年度	30年度	31(2019)年度	32(2020)年度	33(2021)年度	34(2022)年度	35(2023)年度	36(2024)年度	37(2025)年度	38(2026)年度	39(2027)年度	
歳入	車券発売収入①	12,833,476	11,260,000	12,030,000	13,660,000	12,660,000	13,860,000	13,660,000	12,660,000	12,660,000	13,660,000	15,860,000
	その他収入②	312,235	368,666	368,748	368,831	338,831	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831	368,831
	基金繰入金③			200,000	200,000	221,000						
	市債④					100,000	150,000					
	単年度歳入A(①+②+③+④)	13,145,711	11,628,666	12,598,748	14,228,831	13,319,831	14,378,831	14,028,831	13,028,831	13,028,831	14,028,831	16,228,831
	前年度繰越金B	750,072	564,319	373,724	370,678	368,317	358,116	355,428	370,227	369,926	360,540	356,471
	歳入合計C(A+B)	13,895,783	12,192,985	12,972,472	14,599,509	13,688,149	14,736,947	14,384,259	13,399,058	13,398,757	14,389,371	16,585,302
歳出	固定経費①	1,172,238	1,267,442	1,297,773	1,321,111	1,318,111	1,524,751	1,321,111	1,318,111	1,318,111	1,321,111	1,638,063
	変動経費②	11,674,353	10,341,819	11,044,021	12,474,081	11,556,022	12,662,968	12,474,081	11,556,022	11,556,022	12,474,081	14,287,389
	公債費(元金償還金・市債利子)③	34,873	0	0	0	0	2,000	5,000	5,000	14,084	27,708	27,708
	ナイター照明設備④			200,000								
	耐震等工事⑤			30,000	426,000	445,900	181,800	203,840				
	歳出合計D(①+②+③+④+⑤)	12,881,464	11,609,261	12,571,794	14,221,192	13,320,033	14,371,519	14,004,032	12,879,133	12,888,217	13,822,900	15,953,160
歳入－歳出E(C-D)	1,014,319	583,724	400,678	378,317	368,116	365,428	380,227	519,926	510,540	566,471	632,142	
内)単年度収支(A-D)	264,247	19,405	26,954	7,639	▲ 202	7,312	24,799	149,698	140,614	205,931	275,671	
一般会計繰出金	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
基金積立額	400,000	200,000	20,000					140,000	140,000	200,000	270,000	
基金運用収入		320	480	337	177	0	0	0	112	224	385	
基金取崩額			200,000	200,000	221,000							
基金残高	400,000	600,320	420,800	221,137	314	314	314	140,315	280,427	480,651	751,036	
繰越金残高	564,319	373,724	370,678	368,317	358,116	355,428	370,227	369,926	360,540	356,471	352,142	
基金残高+繰越金残高	964,319	974,044	791,478	589,454	358,430	355,742	370,542	510,240	640,967	837,122	1,103,177	

市債借入れが必要：250,000千円（総額 292,077千円）

39（2027）年度末基金+繰越金：1,103,177千円>市債償還残額：210,577千円（償還残期間8年）

2 売上1.5%減・ナイター照明有

（単位：千円）

区分	29年度	30年度	31(2019)年度	32(2020)年度	33(2021)年度	34(2022)年度	35(2023)年度	36(2024)年度	37(2025)年度	38(2026)年度	39(2027)年度	
歳入	車券発売収入①	12,833,476	11,260,000	11,889,450	13,331,485	12,247,741	13,244,025	12,889,455	11,853,748	11,726,340	12,467,018	14,270,258
	その他収入②	312,235	368,666	358,718	348,397	305,491	322,779	310,258	297,924	285,775	273,809	262,022
	基金繰入金③			200,000	240,000	201,000						
	市債④					240,000	180,000					
	単年度歳入A(①+②+③+④)	13,145,711	11,628,666	12,448,168	13,919,882	12,994,233	13,746,804	13,199,713	12,151,672	12,012,115	12,740,827	14,532,280
	前年度繰越金B	750,072	564,319	373,724	371,683	363,791	407,422	344,609	235,703	236,040	191,225	174,680
	歳入合計C(A+B)	13,895,783	12,192,985	12,821,892	14,291,565	13,358,023	14,154,226	13,544,322	12,387,375	12,248,155	12,932,052	14,706,960
歳出	固定経費①	1,172,238	1,267,442	1,297,773	1,321,111	1,318,111	1,524,751	1,321,111	1,318,111	1,318,111	1,321,111	1,638,063
	変動経費②	11,674,353	10,341,819	10,872,436	12,170,664	11,176,590	12,088,266	11,765,268	10,814,824	10,698,619	11,379,712	12,825,954
	公債費(元金償還金・市債利子)③	34,873	0	0	0	0	4,800	8,400	8,400	30,200	46,549	46,549
	ナイター照明設備④			200,000								
	耐震等工事⑤			30,000	426,000	445,900	181,800	203,840				
	歳出合計D(①+②+③+④+⑤)	12,881,464	11,609,261	12,400,210	13,917,774	12,940,601	13,799,617	13,298,618	12,141,335	12,046,930	12,747,372	14,510,566
歳入－歳出E(C-D)	1,014,319	583,724	421,683	373,791	417,422	354,609	245,703	246,040	201,225	184,680	196,394	
内)単年度収支(A-D)	264,247	19,405	47,959	2,108	53,631	▲ 52,813	▲ 98,906	10,337	▲ 34,815	▲ 6,545	21,714	
一般会計繰出金	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
基金積立額	400,000	200,000	40,000									
基金運用収入		320	480	353	161	0	0	0	0	0	0	
基金取崩額			200,000	240,000	201,000							
基金残高	400,000	600,320	440,800	201,153	314	314	314	315	315	315	315	
繰越金残高	564,319	373,724	371,683	363,791	407,422	344,609	235,703	236,040	191,225	174,680	186,394	
基金残高+繰越金残高	964,319	974,044	812,483	564,943	407,736	344,923	236,018	236,355	191,540	174,995	186,709	

市債借入れが必要：420,000千円（総額 490,689千円）

39（2027）年度末基金+繰越金：186,709千円<市債償還残額：345,791千円（償還残期間8年）

(4) ランニングコスト比較

西スタンドについて、耐震補強を行った場合（改修基本パターン1）（※18頁参照）と解体・撤去後、投票所を新築した場合（改修基本パターン2）（※19頁参照）を比較すると、改修基本パターン2は工事費が1億7,450万円増となる一方、年間のランニングコストは450万円減となる。

（単位：千円）

区分	改修基本パターン1	改修基本パターン2	比較	摘要
	西スタンド耐震補強	西スタンド解体・撤去後、投票所新築		
工事費	120,500	295,000	174,500	
ランニングコスト（年間）	7,000	2,500	▲ 4,500	施設修繕料：2,000→0 光熱水費：5,000→2,500

(5) キャッシュフロー比較

改修（改修基本パターン毎）（※18頁～22頁参照）した場合と廃止（更地化・売却）した場合の15年間のキャッシュフローについて、比較した結果は次のとおりである。

1 改修（改修基本パターン毎） 売上±0照明有（当初）：30年度～繰出金0.1億円、（変更後）：30年度～繰出金0.1億円・36年度～繰出金0.5億円 （単位：億円）

区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度	40年度	41年度	42年度	43年度	44年度	計		
			(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	(2025年度)	(2026年度)	(2027年度)	(2028年度)	(2029年度)	(2030年度)	(2031年度)	(2032年度)			
改修パターン1	売上±0照明有（当初）	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	2.00	
		繰越金	9.64	9.74	7.91	8.51	8.13	6.68	5.12	6.57	8.02	10.26	13.20	14.65	16.89	18.35	19.81	22.05	22.05
	売上±0照明有（変更後）	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	5.60
		繰越金	9.64	9.74	7.91	8.51	8.13	6.68	5.12	6.17	7.22	9.06	11.60	12.65	14.49	15.55	16.61	18.45	18.45
	売上▲1.5%照明有	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.50
		繰越金	9.64	9.74	8.12	8.26	7.22	4.90	2.14	2.23	2.08	2.38	2.96	2.34	2.30	1.47	0.53	0.16	0.16
改修パターン2	売上±0照明有（当初）	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	2.00	
		繰越金	9.64	9.74	7.93	7.29	6.38	4.93	3.37	4.82	6.27	8.51	11.44	12.90	15.14	16.59	18.05	20.29	20.29
	売上±0照明有（変更後）	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	5.60
		繰越金	9.64	9.74	7.93	7.29	6.38	4.93	3.37	4.42	5.47	7.31	9.84	10.90	12.74	13.79	14.85	16.69	16.69
	売上▲1.5%照明有	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.50
		繰越金	9.64	9.74	8.14	7.05	5.47	3.15	2.89	2.93	2.73	2.98	3.29	2.38	2.07	0.96	▲ 0.25	▲ 0.90	▲ 0.90
改修パターン3	売上±0照明有（当初）	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	2.00	
		繰越金	9.64	9.74	7.93	7.29	6.33	3.75	3.76	5.08	6.40	8.21	10.44	11.18	12.71	13.45	14.20	15.73	15.73
	売上±0照明有（変更後）	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	5.60
		繰越金	9.64	9.74	7.93	7.29	6.33	3.75	3.76	4.68	5.60	7.01	8.84	9.18	10.31	10.65	11.00	12.13	12.13
	売上▲1.5%照明有	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.50
		繰越金	9.64	9.74	8.14	7.05	5.43	2.77	2.76	2.68	2.37	2.13	1.78	0.22	▲ 0.74	▲ 2.51	▲ 4.37	▲ 5.68	▲ 5.68
改修パターン4	売上±0照明有（当初）	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	2.00	
		繰越金	9.64	9.74	7.87	6.38	3.65	3.54	3.71	5.13	6.55	8.63	11.42	12.71	14.80	16.10	17.40	19.48	19.48
	売上±0照明有（変更後）	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	5.60
		繰越金	9.64	9.74	7.87	6.38	3.65	3.54	3.71	4.73	5.75	7.43	9.82	10.71	12.40	13.30	14.20	15.88	15.88
	売上▲1.5%照明有	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.50
		繰越金	9.64	9.74	8.08	6.14	2.74	2.16	2.12	2.15	1.95	2.03	2.30	1.37	1.02	▲ 0.12	▲ 1.37	▲ 2.05	▲ 2.05
改修パターン5	売上±0照明有（当初）	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	2.00	
		繰越金	9.64	9.74	7.91	5.89	3.58	3.56	3.71	5.10	6.41	8.37	11.03	12.20	14.17	15.34	16.52	18.49	18.49
	売上±0照明有（変更後）	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	5.60
		繰越金	9.64	9.74	7.91	5.89	3.58	3.56	3.71	4.70	5.61	7.17	9.43	10.20	11.77	12.54	13.32	14.89	14.89
	売上▲1.5%照明有	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.50
		繰越金	9.64	9.74	8.12	5.65	4.08	3.45	2.36	2.36	1.92	1.75	1.87	0.78	0.28	▲ 1.02	▲ 2.42	▲ 3.26	▲ 3.26

2 更地化・売却

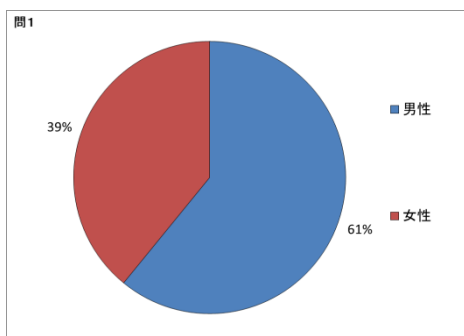
(単位:億円)

区分		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度	40年度	41年度	42年度	43年度	44年度	計		
				(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	(2025年度)	(2026年度)	(2027年度)	(2028年度)	(2029年度)	(2030年度)	(2031年度)	(2032年度)			
更地化・売却	売上±0 照明無	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10												0.90	
		繰越基金	9.64	9.74	9.38	9.49	8.82													
		解体・更地補償						▲18.00												38.82
		土地売却収入							48.00											
	売上▲1.5% 照明無	一般会計繰出金	0.50	0.10	0.10	0.10	0.10													0.90
		繰越基金	9.64	9.74	9.15	8.77	7.39													
		解体・更地補償						▲18.00												37.39
		土地売却収入							48.00											
									0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	4.23	
										0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	4.23	

5 市民アンケート調査結果

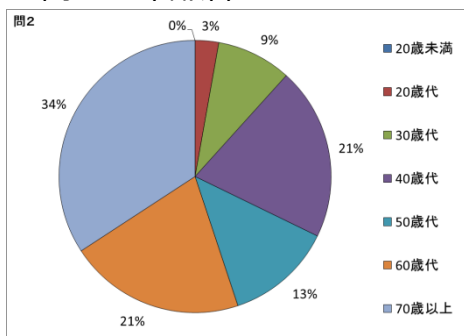
アンケートについては、市内に在住の18歳以上の方の中から、住民基本台帳をもとに無作為抽出した2,000人の方を対象とし、平成30年1月から2月にかけて行った結果、総数814人(40.7%)の方から回答をいただいた。なお、集計については、欠損データ97件を除く717件(35.9%)についてまとめたものである。

問1 性別



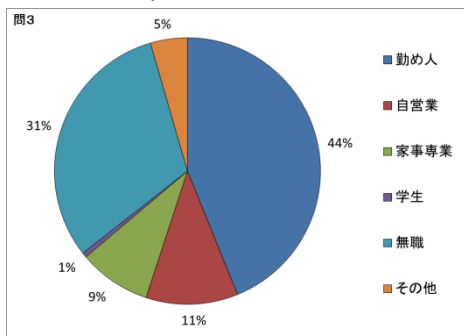
性別については、男性が437人で61%、女性が280人で39%であった。

問2 年齢層



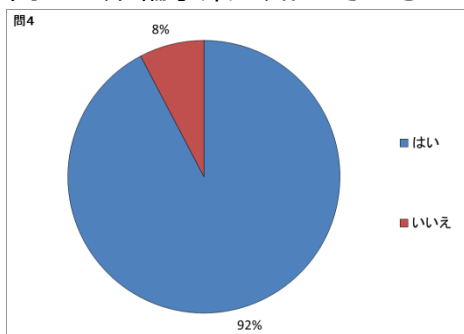
年齢階層については、70歳以上が245人で34%と最も多く、続いて60歳代が150人で21%、40歳代が147人で21%であった。

問3 職業



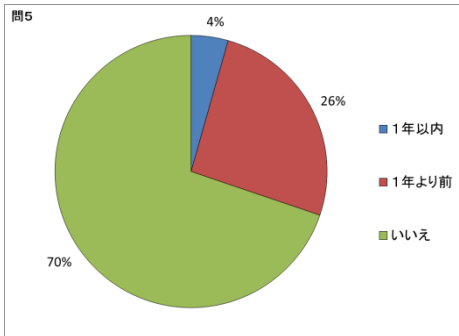
職業については、勤め人が315人で44%、続いて無職が223人で31%であった。

問4 競輪事業を知っているか



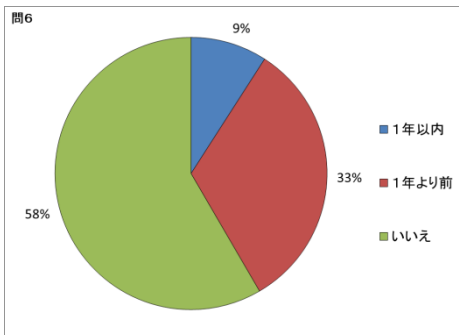
競輪事業を知っているかについては、662人・92%の方が「はい」、55人・8%の方が「いいえ」であった。

問5 来場経験



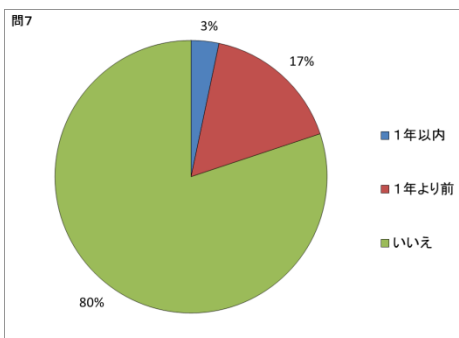
来場経験については、461人・70%の方が「いいえ」、199人・30%の方が「はい」であった。

問6 公営競技購入経験



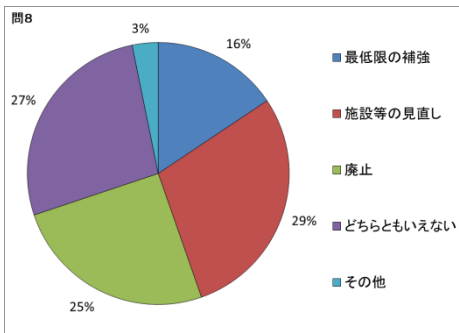
公営競技の投票券の購入経験については、419人・58%の方が「いいえ」、298人・42%の方が「はい」であった。

問7 車券購入経験



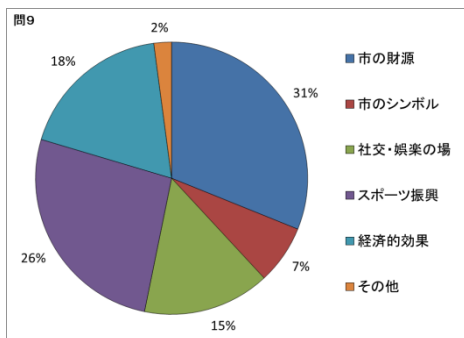
高松競輪の車券の購入経験については、574人・80%の方が「いいえ」、143人・20%の方が「はい」であった。

問8 高松競輪場の今後



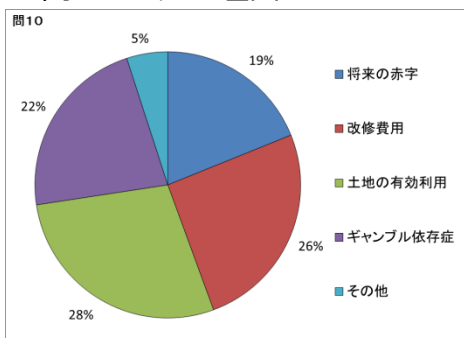
高松競輪の今後については、存続が320人・45%で、内訳については、最低限の耐震補強による存続が112人・16%、運営や施設の見直しも検討の上、存続が208人・29%、廃止が181人・25%、どちらともいえないが193人・27%、その他が23人・3%であった。

問9 存続理由



存続の主な理由については、市にとって貴重な財源であるが204人・31%、プロ・アマチュアを問わずスポーツ振興につながるが173人・26%、市民の雇用など市への経済的効果があるが120人・18%であった。

問10 廃止理由



廃止の主な理由については、他の用途に土地を有効活用すべきが118人・28%、施設改修に多額の費用がかかる可能性があるが107人・26%、ギャンブル依存症の問題の指摘もあるが94人・22%、現在は黒字でも将来の赤字が懸念されるが79人・19%であった。

《アンケート結果について》

高松市公式ホームページ「もっと高松」

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/keirin/keirin.html>

6 委員からの意見

(1) 競輪事業について

- ・改修以外に廃止という選択もあり、廃止後は、更地化又は場外車券売場にするという選択がある。更地化のメリットとして、将来の不確実性に対するリスクがなくなる一方、デメリットとして、経済効果、雇用の減少、存在感、ファンの気持ちなどがある。

- ・改修となった場合、複雑なスケジュールを組む5年間は、民間委託はふさわしくないとと思われるが、今後、見直しのトリガーは埋め込むべきであり、5年後の売上げが想定内であれば構わないが、そうでない場合、15年間の中で変化を吸収するためには、二の矢三の矢としての経営改善の準備も行っていくべきである。

- ・改修し続けるなら15年間は責任を持つべきであり、その間にキャッシュフローを積み増しし、もしやめるという選択肢になった場合にも、20億円が基金に積み立てられていることがあるべき姿であろう。

- ・耐震に対する対応が遅すぎる。また、今後も毎年、ステアリング機能が必要である。代替案として、改修・廃止とあるが、改修案はパターン1と2までとする。3以降は財政的に返済が厳しいと思われる。

- ・廃止の場合は、解体等に約20億円必要だが、土地を売却すれば48億円が見込まれること、そもそも市のシンボルであり、雇用があること、市の方で強いニーズや計画があればジャッジのポイントとなること、また、キャッシュフロー状況を見届けるシステムが必要であるといったことが挙げられる。

- ・売上げが減少していたのが、最近増加に転じており、今後も経営努力により、売上げが増加するのであれば、老朽化した施設の改修計画を進めるべきである。

- ・アンケートの意見については、一つからでも改善する努力が必要である。更地化する場合は、その後の用途が明確になっていることが前提となり、一方、改修の場合、競輪事業で収益が上がるかどうかにかかってくる。

- ・廃止になった競輪場について、存続するか廃止するかを経緯の中で、それぞれの競輪場がどのような取組を行ったか、現在の高松競輪場のPRはどうか、実際に高松競輪に来られている方々の満足度はどうか、選手が施設を使ってどう感じているのかなど、いろいろな部分でヒアリング調査をしっかりと行い、その部分から、気持ちを高めていくことも大切なのではないかと感じている。

- ・更地化はない。理由としては、雇用のこともあるが、ファンや選手の気持ち、歴史もある。高松のシンボルとして、これからの可能性の方が高いと考える。活性化

する選択肢がたくさんある中、また、更地にした後に何をするか決まっていない状態で更地化は考えられない。

- ・ギャンブルを推奨しつつ、売上げを増やすというのは疑問である。競輪を実際に見ると、オリンピックのパシュートに似ている部分があり、それに参加意識をもった少額の購入であれば構わないのかもしれないが、場外での売上げが伸びるというのは、単に、若い層にギャンブルを推奨するということになると思う。また、広い競輪場で、バンクを使用しているのが本場開催の40日のみというのは、稼働率の面でどうなのかと思う。

- ・更地化する場合でも、移転することも選択肢に含めた方が良いと思う。また、広い土地なので民間を活用するような選択肢も必要かと思う。

- ・利用者の意見を酌むということに尽きるのではないか。利用者に限らず市民の意見を命題に掲げる必要がある。更地化のメリットとして、将来の財政危機や不確実性がなくなるほか、より良い利用方法があるかもしれないといったこともあるだろう。

- ・民営化した方が儲かるが、民営化するとやめる選択肢が難しくなるため、耐震工事を行う場合、土地の固定資産税分くらいの一般会計に繰入れが可能かどうか、また、リスク率を加味した15年間のキャッシュフローを見て判断すれば良いと思う。なお、計画に対する実績の評価についても行っていく必要がある。

- ・競輪はスポーツ面としての素晴らしさとギャンブル性のギャップがあり、施設についても、自分が来たいと思えるものになってほしいが、現状では難しいと思う。

- ・特別競輪の誘致のほか、他の競輪場にもっと場外発売してもらえるよう努力してほしい。

- ・競輪場は高松市サイクルスポーツ少年団や高等学校自転車部の練習会場となっているほか、競輪では日本競輪選手会香川支部があること、また、競輪場は、高齢者の健康づくりや居場所づくりにも役立っているため、競輪場は残してほしい。

- ・存続してほしいが、最悪の場合、場外車券売場（サテライト）化しても致し方ないと思う。

(2) 施設について

- ・施設を実際に見た印象として、確かに古いと感じた。廃止という選択肢はあるが、残すとすれば施設に手を打たなければならないことは間違いない。プレスセンターや選手控室も見たが、とても複雑なシステムの中に、多くの関係者がいて、そこで

誇りを持って働いている。競輪場を残すとすれば、選手、従業員、お客様、それを見守る地域の人々が誇りを持てる、シンボリックに語れる存在であってほしい。

- ・全体的に外構・フェンスが場当たりので、お客様に来てもらう雰囲気できていないと感じる。

- ・食事スペースをフードコートのようなものに見直す必要があると感じる。中央スタンドを建て直さなくても、本場開催時に、イベント的に外に屋台を設置するなど、若い人に来てもらえるよう工夫する必要がある。

- ・現状維持ありきの改修ではなく、集客増を図るため、場内の施設の配置を変えろとか、新たな公共施設が必要であれば、競輪場との兼用施設にするといった方法もあると思う。また、食堂についても、京王閣の場合、お店が10店舗くらいあり、様々なメニューを提供しているが、高松の場合、それほど需要が見込めないのであれば、身の丈に合った規模に見直す必要がある。

- ・施設が広すぎる。スタンドを撤去した場合、バンクが風の影響を受けることになると思うので、防風施設を設置するか、他の必要な建物で対応可能なのか、考える必要がある。

- ・商店街の活用など、人が集まる策を考えてほしい。

- ・競輪場は素晴らしい施設であり、これから競輪場を、飲食を含め、どうすれば人が集まり、活発になるかという話を進める方が大事である。収支の面も含め、将来を見据えて、観光交流人口が増える中、競輪場が県内のみならず、県外の方にも来ていただけるような施設になってほしい。

- ・子どもたちにとって、競輪選手に限らず、スポーツ選手になる夢を与えられる場になってくれれば良いと思う。

- ・選手の方の動線が入り組んでおり、もっとすっきりさせた方が良いのではないか。また、関連施設について、ここで1日を過ごすとした場合、食べ物の種類などが少ないと思う。もし家族連れでの来場を促すのであれば、競輪グッズや子どもが遊べるルームなどがあれば良いと思う。

- ・改修にかかわらず、完全分煙にしてほしい。存続であれば、小学校の遠足で競輪場に行きたいと思える施設にしてほしい。

- ・北海道のばんえい競馬は家族ぐるみで楽しめるようなイメージがある。競輪もスポーツとして観賞するには見応えはあるが、競輪場はどちらかという賭ける施設

である。

- ・耐震補強だけではなく、費用はかかると思うが、中央スタンドの外壁、床、女性用トイレ、公園、女性・キッズコーナーの改修など、皆が来たくなるような施設にしてほしい。

- ・アンケートにもあったが、防災拠点として期待する。スタンドが残った場合、スタンドの下を備蓄スペース等に活用してほしい。

- ・小学生の社会見学の間として、利用できるような施設になってほしい。

- ・全体的に施設が非常に大きい。今の集客力からすれば、こんなに大きな施設は必要がなく、北スタンドや西スタンドは撤去し、開催に必要な施設は耐震化すべきである。

- ・純粋に廃止するには勿体ない。これからサンポートに新しい体育館ができるし、屋島には陸上競技場もできたので、競輪場をスポーツ施設の一つとして活かせる方向を探るのが良いのではないか。

- ・競輪場をただ競輪のためだけではなく、イベントを開催することにより、人が来るきっかけを作るとするのが良い。他の競輪場では、イベント開催によって利益を上げている例もあるのではないか。

- ・西スタンドを撤去した場合の風対策として、競走を中止するほどの風にまで耐えられるようにするのかどうか。個人的にはそこまで神経質にならなくても良いと思う。

(3) 収支見通しについて

- ・グッドケース、バッドケースを想定しておくことは良いことだと思うが、人口減少社会の中、売上げは減るのが普通ではないか。競輪の主たる客層は高齢者であり、2025年問題は競輪問題でもあると思われるので、バッドケースが売上1.5%減というのは少し疑問である。

(4) ギャンブル等依存症について

- ・提言に盛り込みたいが、医学的・社会的な面もあるので、事務局ではなく、学者として委員長から提言したい。

- ・ギャンブル依存症については、本人や家族からの申し出があれば、競輪場への入場を断ることが可能になったと聞いている。あらゆる対策をすれば良いのではないか。

- ・ギャンブル依存症については調査が必要である。

(5) その他

- ・リニューアルする場合、ネット等の発信力を高めてほしい。

- ・売上1.5%減が妥当かどうか判断し難いが、高松市民の人口、年齢層、国内・海外観光者などの数から、どこに焦点を合わせていくのかが見えてくるのではないかと。例えば、高松に来た観光者がナイトー競輪に行き、車券を買うといった選択肢があれば良いのではないかと思う。

- ・今後発信するメディア・ネットの面でいうと、例えば、松山競輪ではホームページの多言語化がしっかりしており、これから高松も多言語化に対応していくことを考える必要がある。多額の費用がかかることではあるが、可能な選択肢がある中で、予算化することが大事ではないか。

- ・選手については、県内外のパラリンピックの陸上選手と対話した際、また高松に合宿に来たいという話があった。スポーツ選手の合宿などの一番の候補地となる場が高松になってほしいし、競輪場は可能性が高い。選手が高松で育つということは、将来性ができるということで、高松で良い選手生活が経験できたら、きっと高松に戻って来てもらえると思う。

- ・今の雇用状況であれば、中小企業は人手不足であり、事業をやめざるを得ないところがあるので、雇用について強調しすぎない方が良い。

(6) 参考

第6回会議において、傍聴者8名から意見聴取を行った結果、「競輪場を存続してほしい」、「ギャンブル依存症の問題の議論ができていない」、「自転車競技に特化した施設にすべきである」など、様々な御意見をいただいた。

7 検討委員会からの提言

本検討委員会において、高松競輪の状況や今後の収支見通しなど、様々な視点から検討を行った。視点とは、改修の代替案、他場のベンチマーク、収支見通し、各委員の見識、アンケート結果、その他考慮すべきこと、である。結論の大筋としては、「存続」と「廃止」の両方があり、報告書には両論を併記する。

ナイター照明の設置を前提とすれば、一定の収益の確保が見込め、必要な耐震補強も可能である。ただし、続ける場合は、以下の条件が前提となる。まず、多くの市民にその存在を知ってもらい、女性や子どもも「行ってみたい」と思える競輪場（設備や雰囲気）にすべきである。また、更なる収益改善（民営化など）や在り方を今後も継続して検討・チェックする機能を設けるべきである。一方で、更地化という形で「廃止」にすると、原理的には将来の収益上の不確実性は解消できる。時価から算出して跡地を売却すれば、廃止に伴う費用も拠出可能である。跡地利用について市として何か望ましい具体化案があればこれも選択肢になり得るだろう。ただし、現利用者の行き場、象徴的な市の施設の喪失感、アマチュア競技者が練習の場を失う、雇用機会減など地域経済への負の影響は、新たな課題となるであろう。

(1) 存続の場合

ア 収支見通しと各施設の改修費用を勘案した上で妥当な改修を行い、今後15年間を目途に、競輪事業全体の動向に注視しつつ、収益の確保を図ることが求められる。さらに、競輪事業や経済環境が大きく変化した場合は、改めて競輪事業の在り方について検討する必要がある。

イ 改修規模

改修基本パターン1-①又は2とし、改修基本パターン1-②、3から5については、工事費等の経費が多額になること、また、システム移設等に伴い、本場・場外開催ができないことによる売上等への影響があるため、提案には含めない。

改修パターン	改修内容	工事費
1	西・北・中央スタンド：耐震工事 選手管理棟・事務所・研修室：解体・新築	933,640 千円
2	北・中央スタンド：耐震工事 西スタンド：解体・跡地に投票所を新築 選手管理棟・事務所・研修室：解体・新築	1,108,140 千円

ウ 魅力向上策（付加価値）

イの改修と併せて、一般来場者のほか、女性や家族連れにとっても快適に過ごせるよう、また、小学生の社会見学の間、アマチュアスポーツの場にふさわしい施設となるよう、内装、トイレ、女性・キッズ休憩コーナー、完全分煙、公園、外構（植樹）、フードコートなど、可能な範囲で施設改修を行うべきである。

エ 民間への包括委託の検討

平成15年4月1日に施行された自転車競技法の改正により、車券発払事務などの開催業務について、民間事業者に包括的に委託できるようになり、すでに委託を始めた施行者、競輪場もある。経費の削減が期待できることから、改修にめどがつけば、ナイター設備導入だけでなく包括委託の導入についても検討すべきである。

オ 財政面での貢献

施設改修後の一般会計繰出金については、高松競輪場の土地に係る年間固定資産税額相当の5,000万円程度を確保できる水準とすべきである。

カ ギャンブル等依存症対策

委員長の責任で、医学部教授（香川大学）、社会学系教授（他大学：ギャンブル依存症抑止を唱える一人者）、ベテラン弁護士へのコンタクトと、ウィキペディアへのアクセスにより調査を実施した。それぞれの立場が一家言を持つため、共通した解釈を得るのは難しいが、①ギャンブル依存症は疾患であり、②本人以上に家族を苦しめ、貧困や犯罪を引き起こす懸念がある、③日本は他国と比べてギャンブル依存症が疑われる人の率が突出して高い（対策後進国）である、というのは事実である。国全体で、歳入減を覚悟した賭け金の制限を実施するのが抜本策であるが、まだ途上にすらないのが実情であり、例え一部のギャンブルの機会を廃止しても、現状では他のギャンブルに流れるだけであろう。

ただし、今回の老朽化案件のように、対策が後手に回らないよう、存続するならば、競輪場、高松市としてもギャンブル依存症対策の実態に向き合う覚悟で、打てるべき対策を講じ、望むらくは第三者のチェックを継続的に受けるべきである。対策とは、ヘルプラインの明示、専門病院や回復施設の整備などであり、現状では十分であるとは言えない。競輪のスポーツとしての魅力を前面にアピールするような存在感を打ち出したらとの提案が複数の委員からあったが、委員会としての総意としても提案したい。

※ 高松競輪場の取組

高松競輪場では、ギャンブル等依存症対策として、のめり込みの防止、未成年者の車券購入禁止を注意喚起するためのポスター等の掲出や、ホームページへの掲載等を行っているほか、公営競技関係団体で構成される全国公営競技施行者連絡協議会等の専門窓口と連携を図りながら依存症対策に取り組むため、平成30年1月に競輪依存症相談窓口を設置したところである。また、30年4月からは、本人又は家族からの申請による電話・インターネット投票の利用停止ができる制度の運用を開始したほか、同年10月からは、本人又は家族からの申請による入場禁止等の対応を行うこととしている。

(2) 廃止の場合

ア メリット

- ・将来赤字転落のリスクがなくなる。
- ・施設改修の負担がなくなる。
- ・射幸心をあおる場を減少できる。
- ・跡地の有効活用が可能になる。
- ・固定資産税収入が見込める（民間に売却の場合）。

イ デメリット

- ・市内に競輪場がなくなることによる影響（存在感・シンボルの喪失）がある。
- ・アマチュア競技者が練習の場を失う。
- ・利用者の行き場を失う懸念（高齢利用者が引きこもり化するなど）がある。
- ・競輪開催に関連する業務がなくなるため、地域経済に与える影響がある。
- ・選手が出走できる場が減少するなど競輪関係者、関係諸団体に与える影響がある。
- ・更地化に伴う費用が一時必要になる（解体撤去費用約13億円、損失補償費用最大約7億円、計最大約20億円）。
- ・実際の協議（廃止に伴う）や交渉（売却）が難航することが想定される。

ウ 代替案

(ア) 更地化

更地化により、将来赤字転落のリスクがなくなるほか、土地の有効活用について、民間事業者の提案を活かした取組を展開するなど、より良い利用方法が可能となる。

(イ) 場外車券売場とバンクの併設※

場外車券売場としての活用を図り、場外車券発売事業を行う事業者に施設を貸し付けることにより、事業者から施設使用料収入を得ることができるほか、自転車競技施設としてバンクの活用を図ることにより、アマチュア自転車競技の振興に寄与することができる。

(ウ) 場外車券売場のみ※

場外車券売場としての活用を図り、場外車券発売事業を行う事業者に施設を貸し付けることにより、事業者から施設使用料収入を得ることができる。

(エ) バンクのみ※

自転車競技施設としてバンクの活用を図ることにより、アマチュア自転車競技の振興に寄与することができる。

※ 当検討委員会においては、収支面の議論を優先したため、(イ)から(エ)までの代替案（廃止後の施設の活用方策）について、委員から意見はあったものの、深い議論は行っていない。

8 まとめ

高松競輪場は、施設の老朽化と耐震性の欠如が大きな課題と当初から想定されており、当検討委員会においても、この課題をどのように解決すべきか、という部分が大きなミッションとなった。施設を視察したところ、老朽化はかなり進んでおり、震災時に倒壊又は崩壊の危険性が高いとされている西・北スタンドも、その深刻度は一目瞭然であった。高松市は、将来において大規模修繕若しくは保全に係る費用が必要であることは容易に予測できたはずである。

こうした課題に対し、他のほとんどの競輪場においては基金を設置し、資金を準備している状況を鑑みると、遅きに失した感は否めない。高松市の競輪事業は、平成29年度までの67年間で、一般会計への繰出金の累計は407億円余にも上る一方、施設改修の財源は繰越金のみという状況であった。29年度にようやく基金の積み立てが始まったが、スタンドだけでなく、職員の働き場でもある事務所も老朽化は深刻である。施設管理者として、これだけの大規模施設にもかかわらず、施設の修繕計画も策定されていないならば、これまで財源となる基金もなく、職員の安全さえ脅かされる状況に放置されていた状況は可及的速やかに是正されるべきである。

高松競輪場には、公営ギャンブル事業の運営（収益の社会還元）以外にも、競輪場が有するスポーツ施設としての側面や、親子や子どもたちが遊具を利用するために来場するという公園としての側面、防災拠点の側面、地域での雇用を生み出す場としての側面があり、これら地域社会、地域経済に及ぼす影響を考えれば、高松市に競輪場が存在する意義と存在感は決して小さくはなく、これらのことを総合的に鑑みて、当検討委員会としては、現状において競輪場は直ちに廃止すべきではないという意見が趨勢を占めたのは事実だと考える。ただし、存続の場合においても、耐震化の進捗や、更なる収益改善の検討、市民にとって魅力ある競輪場（丸亀競艇がお手本として挙げた）にするための施策検討のために、再度外部委員によるアドバイザリー・ボードなどを設置し、議論を継続することが望ましいと考える。

一方で、競輪事業は公営ギャンブルであり、赤字の補填に税金を投入することは妥当ではない。経営状況が悪化し、将来的に赤字に転落する前に廃止するというのも一つの選択肢であろう。ギャンブルの負の側面、例えば依存症に関しても競輪場との関係性について委員や、アンケート、傍聴席ヒアリングなどを通じて市民から問いただす声があった。ただし、廃止を選択した場合にも、これらの負の側面が全て解消されるわけではなく、地域や地域経済などに、新たな別の課題が発生することは留意すべきで、その解決には見通しをつける必要がある。

競輪事業を存続するか、廃止するか議論に当たっては、特に廃止する場合は、関係省庁等との事前協議も十分行う必要がある。同時に、地域や関係企業或いは関係諸団体とも交渉や調整を図る必要がある。これらは委員会がコミットする範囲ではなかったが、考慮すべき事項として付記する。

以上のことから、財政上のメリット・デメリット、地域や地域経済、競輪事業関係者に与える影響を十分考慮する中で、総合的に勘案し、適切な判断をしていただきたい。

《資料1》

高松市競輪事業検討委員会委員名簿

(敬称略)

区分	分野	氏名	役職等
委員長	学識経験者	板谷 和彦	香川大学大学院地域マネジメント研究科教授
副委員長		矢野 健彦	一般財団法人百十四経済研究所顧問
委員	商工・経済団体	西村 周子	公益社団法人高松青年会議所直前理事長
	公認会計士	石川 千晶	税理士法人石川オフィス会計代表社員
	地域活動団体	万野 妙子	松島地区主任児童委員・人権擁護委員
	スポーツ団体	七條 一雄	公益財団法人高松市スポーツ協会会長
	建築	米澤 巧	一般社団法人香川県建築士会正会員

《資料2》

高松市競輪事業検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 本市の競輪事業の今後の在り方について広く検討するため、高松市競輪事業検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 検討委員会は、次に掲げる事項について検討し、その結果を市長に報告するものとする。

- (1) 本市の競輪事業の現状に対する評価及び将来の見通しに関すること。
- (2) 本市の競輪事業の存廃を含めた今後の在り方に関すること。
- (3) 高松競輪場の耐震対策に関すること。
- (4) その他検討委員会の設置目的を達成するために必要な事項

(組織)

第3条 検討委員会は、委員7人以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験を有する者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 検討委員会に委員長及び副委員長をそれぞれ1人置く。

- 2 委員長は委員の互選により定め、副委員長は委員長が指名する委員をもって充てる。
- 3 委員長は、会務を総理し、検討委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 検討委員会の会議は、委員長が招集し、委員長は、会議の議長となる。

- 2 検討委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見等を聴くことができる。

(守秘義務)

第6条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(庶務)

第7条 検討委員会の庶務は、創造都市推進局産業経済部競輪場事業課において行う。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が検討委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成29年8月16日から施行する。

(招集の特例)

2 この要綱による最初の検討委員会の会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

(失効)

3 この要綱は、第2条の規定による報告の日限り、その効力を失う。

《資料3》

ギャンブル依存症の調査結果まとめ

委員長が以下のルートで実施

- 1 香川大学医学部教授
- 2 社会学系教授（他大学：ギャンブル依存症抑止を唱える一人者）
- 3 ベテラン弁護士
- 4 ウィキペディア

- 1 香川大学医学部教授

一般的なことはウィキペディアでほぼ言い尽くされている。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AE%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%96%E3%83%AB%E4%BE%9D%E5%AD%98%E7%97%87>

ギャンブル依存症の部分はかなり信頼して良い。その上で下記をコメント。

Q：ギャンブル依存症とは疾患なのでしょうか？

A：発症要因は複数の遺伝子による多因子疾患と考える。

Q：依存症になりやすい性格、環境などはあるのでしょうか（医学上）？

A：一般的に「他人に頼まれたら断れない」性格は依存症になりやすいと臨床医は感じている。また、現代社会では、いわゆる感情労働の比率が増えてきて、ストレスが大きくなり依存症に陥りやすいとされている。

Q：医学上、有効な防止策があるとしたらどのような策となりますでしょうか？

A：これはなかなか答えるのが困難。ただ、一部の報告によると、ギャンブルにおける「ギャンブル性」を小さくすることで多少は、予防できると考えられる。

Q：ギャンブル依存症に対する治療法や復帰（リハビリ）の支援の方策はどのようなものなのでしょうか？

A：従来は「当事者性」を生かした治療を行う、ということが重要視されていた。現在ではその病態があまりに多様であるため誰にでも適応できる治療法はまだ示されていないと思う。

- 2 社会学系教授（他大学：ギャンブル依存症抑止を唱える一人者）

Q：ギャンブル依存症特有の問題とは何でしょうか？

A：本人はギャンブル関連の問題を隠すが、隠しきれなくなると、家族にバレる。それ以降、家族が尻拭いをするので、大抵は家族の方が苦しむことになる。うつ、不眠、借金のやりくり、犯罪、自殺（未遂）、問題が発覚してからは、家族の苦しみの方が大きくなる。

Q：ギャンブル依存症にはどのようにして陥るのでしょうか？

A：大勝ちした経験が忘れられず、負けを取り戻そうとお金をつぎ込む行為が重なる。ギャンブル依存の末期になると、負けを取り戻すことはできないくらいは理解しているが、ギャンブルの直前や最中は「勝つ」「勝って取り戻す」と思いこむ。ギャンブル依存の初期、末期でも違ってくるし、やっている最中、やっていないときでも認知モードが違う。ギャンブル依存は複雑な現象なので、そのどこに注目するかによって現れてくる様相が異なる。

Q：関連する国の政策をどのようにお考えになりますか？

A：国は何も真剣に考えていない。カジノ産業の要求が通っているようだが、グローバルなカジノ産業はとても大きな力を持った政治団体。カジノを含めてギャンブル産業は、ギャンブラー個人に原因を求めようとする傾向にある。

Q：負の側面を最小化するという取組が対策として現実的なののでしょうか？

A：害の最小化政策を本気で実施したのは、ノルウェーだけ。もともと大陸ヨーロッパは、北米やオーストラリアなどに比べてギャンブルは規制されている。ギャンブル産業の歳入は、ギャンブラーの負けたお金。害を最小化すると歳入は減少する。全く問題のないギャンブルは自分の年収の2%程度とされる（これで利益を出すことのできるギャンブル産業があるとは思えないが）。

Q：（それでは）対策として効果的なのは何でしょうか？

A：上述のようにギャンブラーの負けたお金が歳入である限りは、歳入が減る＝効果的な抑止策。それを本気でやったのはノルウェー。賭け金の制限をし、それ以上、ギャンブルをできなくした（もっとも競輪はノルウェーにはないが）。ギャンブルを始める前に1日、1ヶ月の失うお金を制限し、その制限にきたら、ギャンブルをできなくしている。抜け穴を作らないために、事前登録制、キャッシュレス（登録者の口座で処理）に。プレイを全てモニターし、危ない兆候を見つければ、事業者が連絡も。当然、歳入は落ちたが、ノルウェーは、国民がギャンブル欲求を適度に満たすために、ギャンブルを許可している。

よくやられる啓蒙キャンペーンや若者教育などの対策は、最も効果の低い対策。そもそも家族のための支援やギャンブル抑制策には、独立した財源が使われるべき。

3 ベテラン弁護士

Q：担当した事件でギャンブル依存症が関係したものはありましたか？

A：たくさんある。ギャンブル依存症でお金に困って窃盗をはたらいたケースなど。

本人たちに聞くと「負けるはずはない」と確信してその日の勝負に打って出るということである。とりわけ最初に大勝した人に出やすい（依存症）傾向があるように思う。忠告するが、時限的な委員会で解決できる問題ではない。現法や国のあり方の傘の下でどうしていくか考えるべきであろう。

4 ウィキペディアより抜粋

精神疾患のひとつに分類され、医学的な呼称は「ギャンブル障害」又は「病的賭博」である。本障害は「持続し反復する問題賭博行動によって臨床的に意味のある機能障害や苦痛が生じている状態」また、「貧困になる、家族関係が損なわれる、個人的な生活が崩壊するなどの、不利な社会的結果を招くにもかかわらず、持続的に繰り返され、しばしば増強する賭博行為」を本質的な特徴とする。

2009年に発表された研究調査結果（SOGSによる）によると、日本の成人男性の9.6%、同じく女性の1.6%、全体平均で5.6%がギャンブル等依存症の疑いがあった。これはアメリカの0.6%、マカオの1.78%などと比較して極めて高い数値であった。この年の成人人口（国勢調査推計）から計算すれば、男性は483万人、女性は76万人、合わせて559万人がギャンブル等依存症の疑いと推測された。

日本ではパチンコ依存問題のヘルプラインとして、リカバリーサポート・ネットワークが機能しており、10年間で2万件の相談を受けている。こうしたヘルプラインの充実が以下のような基本の周知とともに、日本のギャンブル障害予防対策として重要であろう。ギャンブルする金額を小遣いの範囲内にとどめ、レジャーの範囲を逸脱しないようにする。

《資料4》

検討の経過

【第1回】平成29年 8月30日（水）

- 1 委員長・副委員長の選任について
- 2 高松市競輪事業の現状について
- 3 競輪事業の収支状況について
- 4 施設改修の必要性について
- 5 その他

【第2回】平成29年10月25日（水）

- 1 前回会議における質問に対する回答について
- 2 施設改修の方向性について
- 3 実地見学調査
- 4 その他

【第3回】平成29年12月22日（金）

- 1 前回の実地見学調査と宿題の振り返りについて
- 2 検討手法（選択肢と評価の基準設定）について
- 3 収支見直しについて
- 4 市民アンケートについて
- 5 その他

【第4回】平成30年 2月28日（水）

- 1 選択肢（代替案）と評価基準について
- 2 収支見直しについて
- 3 市民アンケート調査結果について
- 4 その他

【第5回】平成30年 4月26日（木）

- 1 前回会議における質問に対する回答について
- 2 評価基準に基づく施設の代替案について
- 3 その他

【第6回】平成30年 6月28日（木）

- 1 評価基準に基づく施設の代替案について
- 2 競輪関係者等からの意見聴取について
- 3 その他

【第7回】平成30年 7月31日（火）

- 1 高松市競輪事業検討委員会報告書（案）について
- 2 その他

【第8回】平成30年 8月29日（水）

- 1 高松市競輪事業検討委員会報告書（案）について
- 2 その他
- 3 市長報告

《検討委員会会議記録について》

高松市公式ホームページ「もっと高松」

https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/johokokai/fuzoku/fuzoku/ruiji/sozotoshi/keirin_kentou.html